

令和6年度  
双葉郡の教育に関するアンケート調査  
結果報告書

双葉地区教育長会  
令和7年（2025年）2月







# 目 次

<b>1. 調査概要</b> .....	<b>5</b>
1.1 調査目的.....	5
1.2 調査対象.....	5
1.3 調査方法.....	5
1.4 調査期間.....	5
1.5 回答者数.....	5
1.6 アンケート回答率.....	5
1.7 アンケート回答者情報.....	5
<b>2. アンケート調査結果</b> .....	<b>7</b>
2.1 学習・生活・教育環境・双葉郡教育復興ビジョン事業等について.....	7
(ア) 児童生徒、卒業生.....	8
(イ) 教職員、教育関係者.....	9
(ウ) 保護者、地域住民.....	10
2.2 学習・全般に関して.....	11
(ア) 児童生徒、卒業生.....	12
(イ) 教職員、教育関係者.....	21
(ウ) 保護者、地域住民.....	30
2.3 双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて.....	36
(イ) 教職員、教育関係者.....	37
2.4 双葉郡教育復興ビジョンの推進について.....	44
(エ) 双葉郡教育長、校長、中高生交流会実行委員長.....	45
(オ) 地域コーディネーター.....	50
(カ) 幼稚園、保育所、認定こども園の園長.....	52

## 1. 調査概要

### 1.1 調査目的

よりよい双葉郡の教育をめざして、学校教育等に対する意見や感想を調査し、それを今後の計画づくりや運営の参考とする

### 1.2 調査対象

- (ア) 児童生徒、卒業生
- (イ) 教職員、教育関係者
- (ウ) 保護者、地域住民
- (エ) 教育長、校長、中高生交流会実行委員長
- (オ) 地域コーディネーター
- (カ) 幼稚園、保育所、認定こども園の園長

### 1.3 調査方法

アンケート

### 1.4 調査期間

令和6年7月30日（火）～8月30日（金）

### 1.5 回答者数

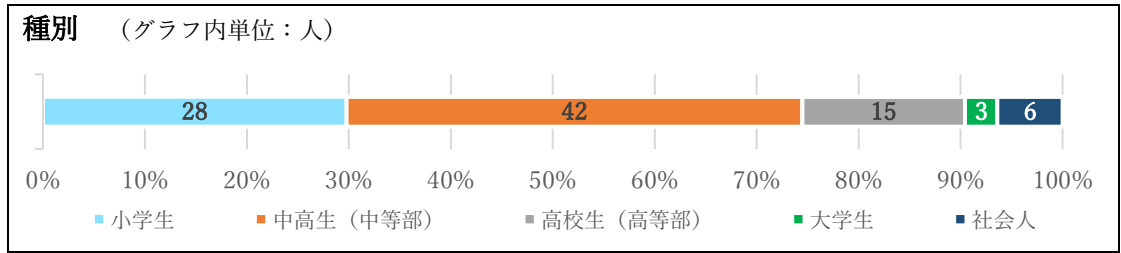
200人（内訳は『1.6 アンケート回答率参照』）

### 1.6 アンケート回答率

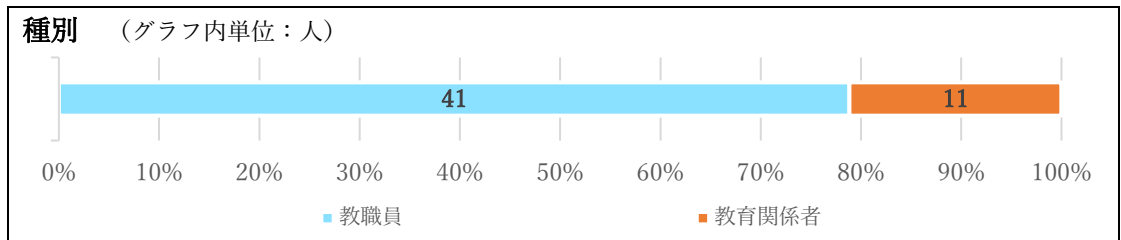
対象種別	対象者数	回答数	回答率
(ア) 児童生徒、卒業生	114	94	82.5%
(イ) 教職員、教育関係者	52	52	100%
(ウ) 保護者、地域住民	38	23	60.5%
(エ) 教育長、校長、中高生交流会実行委員長	27	21	77.8%
(オ) 地域コーディネーター	8	5	62.5%
(カ) 幼稚園、保育所、認定こども園の園長	8	5	62.5%
計	247	200	74.0%

### 1.7 アンケート回答者情報

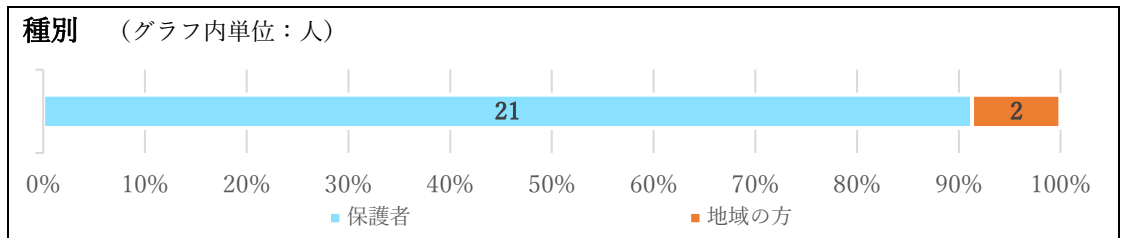
- (ア) 児童生徒、卒業生



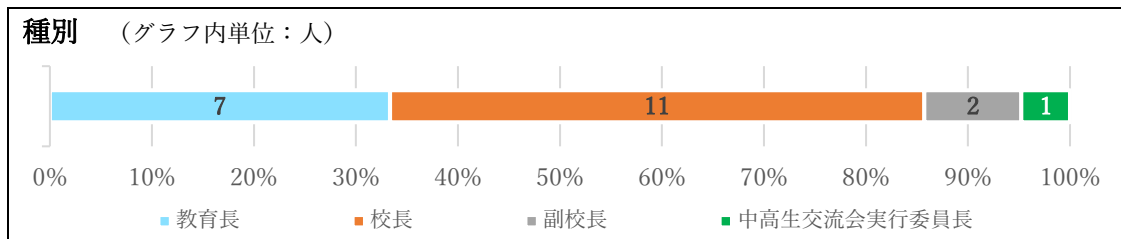
(イ)教職員、教育関係者



(ウ)保護者、地域住民



(オ)教育長、校長、中高生交流会実行委員長



※ (オ) 地域コーディネーター幼稚園及び (カ) 保育所、認定こども園の園長は種別なし

## 2. アンケート調査結果

### 2.1 学習・生活・教育環境・双葉郡教育復興ビジョン事業等について

児童生徒卒業生、教職員・教育関係者、保護者・地域の方の三者ともに、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「少しあてはまる」の評価が、8割を越えている。

また、令和3年に実施した前回の18項目のアンケート結果と比較して向上した項目数は児童生徒卒業生が15項目、教職員・教育関係者が12項目、保護者・地域の方が5項目である。双葉郡教育復興ビジョンの各種取組が広く理解され、充実してきたためと考えられる。

#### ○ 最も評価の高かった項目

➤ 児童生徒卒業生	「8 主体性の尊重」	97.7%
	「13 物的教育環境」	96.7%
	「14 人的教育環境」	96.7%
➤ 教職員・教育関係者	「1 町村の活気」	100.0%
	「18 課題解決」	98.1%
	「17 広報活動」	98.0%
	「3 思いやり」	96.0%
	「6 地域復興」	96.0%
	「8 主体性の尊重」	96.0%
	「13 物的教育環境」	95.5%
➤ 保護者・地域の方で	「8 主体性の尊重」	95.0%
	「12 地域の力」	95.0%

#### ○ 最も評価の低かった項目

➤ 児童生徒卒業生で	「10 郡内小中高の交流」	67.1%
	「7 ふるさと創造学」	82.6%
	「4 夢や目標」	83.1%
➤ 教職員・教育関係者で	「10 郡内小中高の交流」	68.7%
	「5 ふるさとへの誇り」	81.7%
	「2 あいさつやま-」	84.0%
➤ 保護者・地域の方で	「4 夢や目標」	65.0%
	「5 ふるさとへの誇り」	65.0%
	「16 地域づくりや交流」	66.7%

全体的に保護者の評価が厳しい。コロナにより双葉郡教育復興ビジョンの各種取組に参加する機会が制限されたためと考えられる。

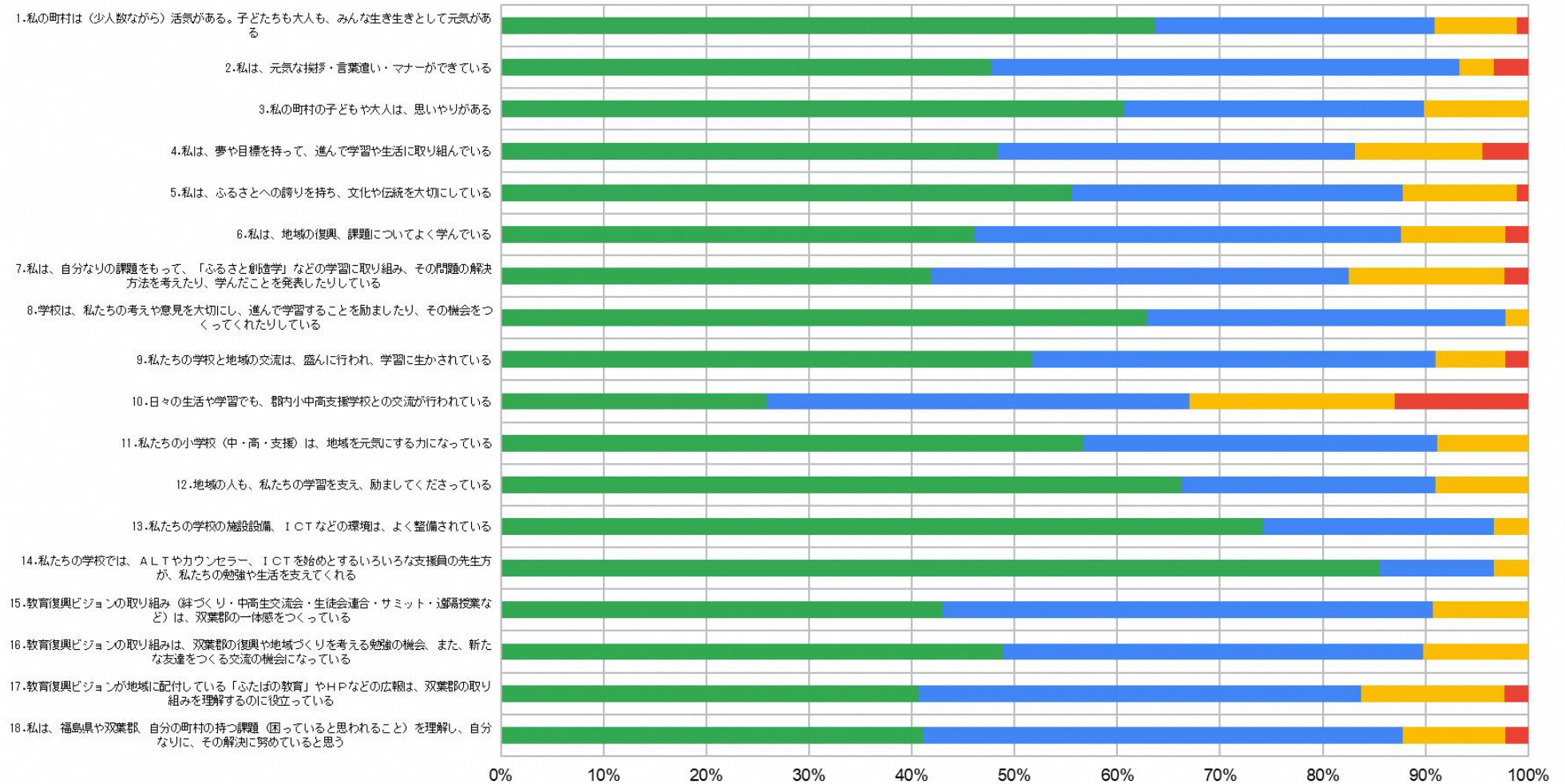


(ア)児童生徒、卒業生

※回答があったうちの割合

【児童・生徒・卒業生】

■ A：よくあてはまる、そう思う ■ B：すこしあてはまる ■ C：あまりあてはまらない ■ D：あてはまらない、努力したい

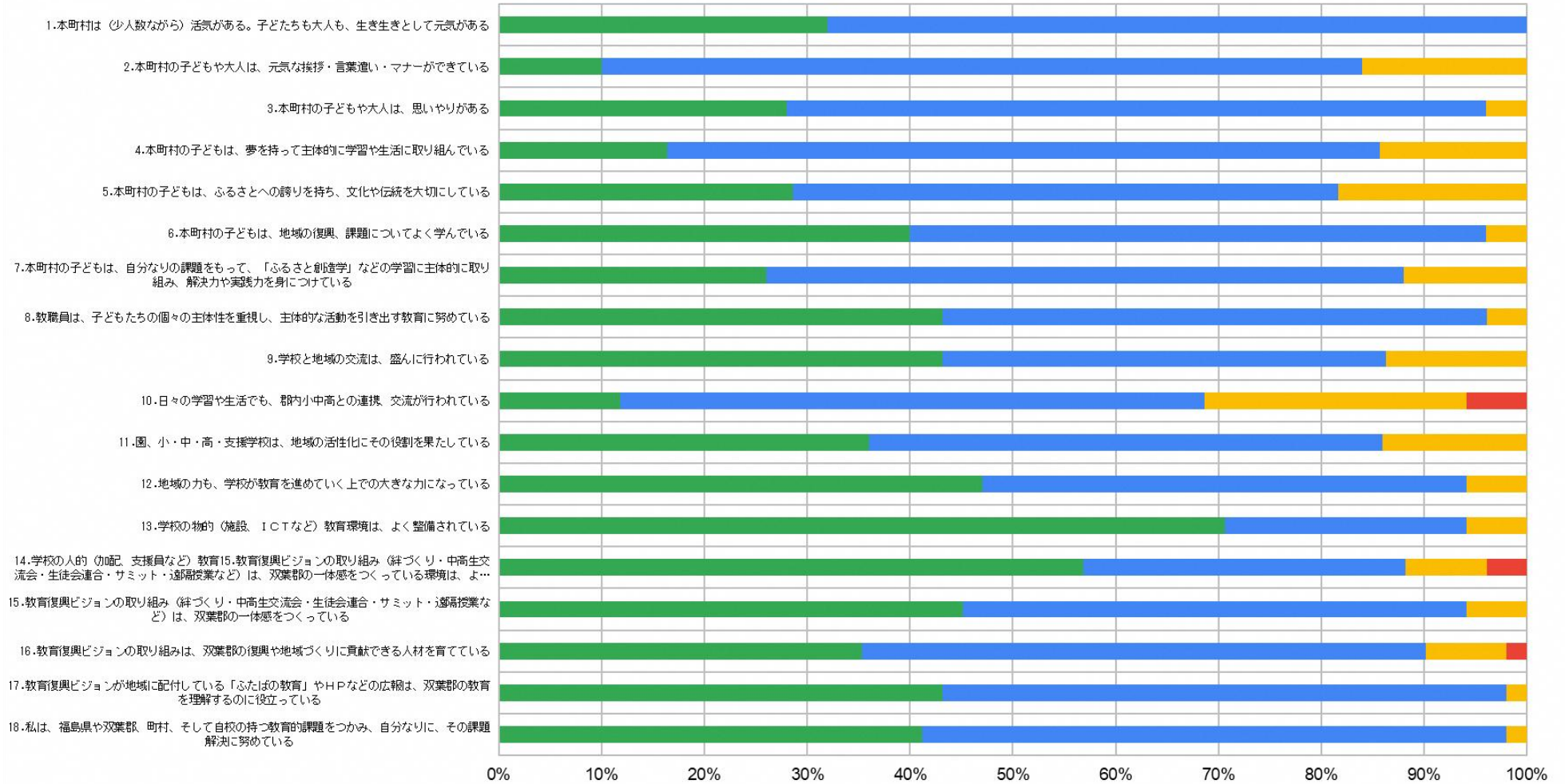


(イ)教職員、教育関係者

※回答があったうちの割合

【教職員・教育関係者】

■ A : よくあてはまる、そう思う ■ B : すこしあてはまる ■ C : あまりあてはまらない ■ D : あてはまらない、努力したい

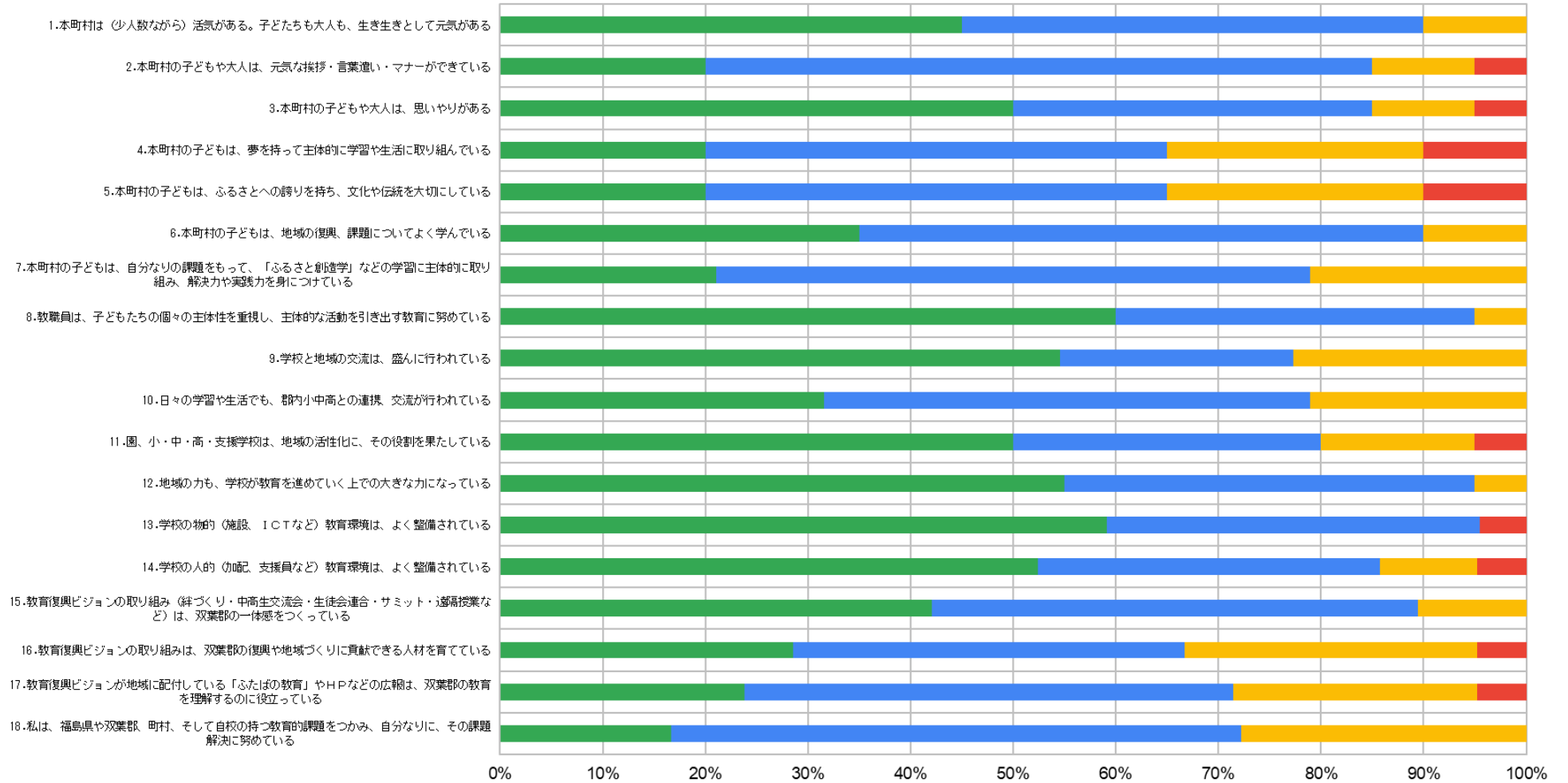


(ウ)保護者、地域住民

※回答があったうちの割合

【保護者・地域の方】

■ A：よくあてはまる、そう思う ■ B：すこしあてはまる ■ C：あまりあてはまらない ■ D：あてはまらない、努力したい



## 2.2 学習・全般に関して

子どもたちの多くは、ふるさと創造学の取り組みを通して地域の方々と盛んに交流し、地域の復興、課題について深く学び、課題を自分事として捉え、自分ができることを真剣に考えるようになった。また、解決する過程でふるさとのよさを発見し、ふるさとへの誇りや思いを強めている。

ふるさと創造学サミットでは、たくさんの方々の協力で自分たちが探究してきた学びを堂々と発表することで発表に自信を持ったという回答が多かった。

これらの活動を通して、課題解決能力や情報収集力、整理分析する力、わかりやすく発表する力、コミュニケーション力などを身に付けていると回答している。

また、ふるさと創造学で経験した探究的な学びが、その後の学びにつながりふるさとへ貢献しようとする意欲が高まり、地域の復興のために地元に戻り仕事に就いた卒業生もいる。

また、小学校時代に絆づくり交流会に参加した中学生や高校生が生徒会連合に所属し、実行委員として企画・運営に携わるなど、横のつながりだけでなく縦のつながりが形成され、後輩のために積極的に行動するリーダーシップも着実に育っている。そのようなことから今後も教育復興ビジョンの取り組みが大切であると回答している。

教職員、教育関係者についても、教育復興ビジョンの各種取組によって、地域社会を活気づけ、地域の復興に大きく貢献していると全員が回答している。

また、すべての事業等を通して、子どもたちの主体性・協働性・創造性が伸ばされているだけでなく、指導者側も多くのことを学んでいると回答している。

特に最近のふるさと創造学サミットの様子からは、発表だけでなく後半を対話にしたことで、他者を意識した表現や発信となり、発表者だけでなく参観者にとっても自分事として捉え、違いや共通点を見い出し、より深い学びへと進化してきていると回答している。

ただ、震災から間もなく14年が経過し、今後、帰還者や移住者が増えていくことに加え、震災を知らない世代（震災を教師として経験していない教師も含む）がますます増えてくるにあたって、復興の取り組みや震災の教訓を継承し、風化させないことも大切であると考えている。

保護者の多くも、ふるさと創造学の探究的な学びを通して、双葉郡の現状と課題をよく認識するとともに、地域の方々とふれあうことで、ふるさとを思う心が育っていると考えている。また、自ら考え、行動し、結果を発信する主体的な学びにつながっていると感じている。

さらに、児童生徒数が少ない学校が多いため双葉郡8町村の垣根を越えた、他校の友達との交流を今後も継続してほしいと願っている。双葉郡ならではの魅力ある教育復興ビジョンの取り組みを継続することで帰還者や移住者が増えることを望んでいる保護者もいる。

ただ、前回のアンケートに比べて18項目中13項目の評価が下がってしまったことは残念である。新型コロナウイルス感染防止や双葉郡内の総児童生徒数の増加に伴って、教育復興ビジョンの各種取組への保護者の参加が制限された結果、子どもたちの活動の様子を見る

機会が減少したことが原因として考えられる。

(ア)児童生徒、卒業生 ※主な意見

【学習に関して】	
1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小・中・高・支援学校が、みんなで取り組んでいる学習についてお聞きします。次にあげる学習を通して、①あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。できれば、②その理由（どうしてそう思うのか）もお願いします。	
(1) 各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習	
① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。	② その理由（どうしてそう思うのか）
<小学生>	
水素の学習を通して、日本の温暖化などに対しての <b>考え方が広がりました</b> 。	水素は CO2 さくげんのために浪江町で使われているので、温暖化とも関わるのではないかと考えました。
<b>伝える力 考え方</b> ・もっといろんな人に富岡の良さを伝えたい	富岡町の人口が増えてほしいから
<中学生（中等部）>	
自分の住んでいる町や地域に関して課題や魅力、私ができることなどを考えるようになった。また、これらのことについて自分が考えることでより良い町になるといいなと思うようになった。	以前は自分の住んでいる町に関してあまり考えたことがなかったが、町が抱えている課題や、ふるさと創造学の学習を通して町が抱えている課題や、発信している魅力について知り、 <b>自分ごととして考えるようになった</b> から。
一つの課題をどうやったら乗り越えられるかなどを考えるうえで <b>想像力や課題解決能力</b> もつけられたと思います。また、新たな魅力を見つけていくなかで地域の良いところを再発見していくことができました。	日々の生活で課題を解決していく力がついているなと思ったから。
<高校生（高等部）>	
<b>コミュニケーション力</b> が身についたと思います！学校を越えてたくさんの人と話すことによって、新たなことをしれて、また質問などを通して互いに話す機会が自然と増え、普段の学校生活よりもサミットの日にはたくさんの人と話せ	普段の学校生活とは違い、話すのが苦手な人でもサミットの日には自然と他の学校の人たちとたくさん話し、またみんなの前に出て話すことが多いからです！

て、とてもコミュニケーション力が身についたなと思います。	
何事にも諦めず耐え抜く力を身につけた。答えのないこともいろいろな立場から考えること、すぐに答えを見つけなくてもいいと考えるようになった。	社会には簡単に解決出来る問題が少なく、何度も考えて答えを見つけていくものだと思ったから。
<大学生>	
故郷への想いがより強くなった	ふるさと創造学を通して広野町の歴史を知り、震災前の後の変化や広野町の復興のための取り組みを知ったから
とりあえずやってみたり、言ってみたり、動いてみること。	たくさんの人が失敗や周りの目を恐れて手をあげない中で、「おれいきます!」「やりたいです!」ととりあえず言ってみたことでたくさんのチャンスやサポートを得ることが出来てきたから。 そうやっていろんな事に挑戦していくと人脈も増えるし楽しいと思えることも増えるな〜と最近感じる。
<社会人>	
主に原子力発電や、原発で住めなくなった地域の復興について学びました。私は特に避難の際に取り残されたペット（動物）について調べまわっていましたが、事前の準備や対策が必要だと考えハザードマップの政策や避難所の設備等の提案を行いました。身についたと感じたことは、何か起こってから行動するのではなく、何が起きても大丈夫なように考え行動する力だと思います。	何か作業に取り掛かる時に、まず最悪な事態を想定するとそうならないように手順を考え、効率のよい仕事ができるので、高校生の時に身についたのかと思いました。
被爆地の歴史を学び、福島の実状と重ね合わせ、復興の道筋を学んだ。平和への思いと、それを風化させない努力を学び、村内並びに福島復興を教わった。	毎年8月に長崎市を訪れ、長崎大学と交流。村内のブドウを使って色素増感太陽電池の政策実験を行い、また、原爆資料館を訪れ平和式典に臨んだ。
(2) 郡内の小・中・高・支援学校生が集まって行われる「ふるさと創造学サミット」	
① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。	② その理由（どうしてそう思うのか）
<小学生>	

他の人の発表を聞き、その話題について考えたり、哲学対話で自分の意見を話すことができるようになった。	自分の意見を言うのが苦手だけど、少し言えるようになったから
他の学校の方との交流会や発表を聞いて、自分じゃ考えられないことをしているのを見て、「すごいな、私もこんなふうに考えてみたいな」と思いました。	自分たちの学校とはちがう考え方をしている学校ばかりだったので、とても勉強になりました。考え方が広がりました。
<中学生（中等部）>	
人とのコミュニケーション能力や地域愛	初対面の学生や見に来てくれた地域の方に調べたことを発表したり、生徒会など学生同士でサミット内の企画を考えたりするため。生徒会に所属していたが、他校の生徒会やふたば未来の生徒会の生徒のみんなで企画し、実行することで交流する力が育まれたと思うから。 また、自分が住んでいる、通っている学校の地域について調べ、自分の考えを深めることで自分がいる地域についてよく考える時間ができ、またサミットで紹介することにより <b>地域に対する愛情が深まる</b> と思うから。
ほかの学校の生徒のみなさんの発表を聞いて考え方の違いなどを知れて <b>質問する力、聞く力</b> をつけることができました。	日々の授業でも不思議に思う気持ちをもったり、人の話を聞く力をつけられたと思ったから。
<高校生（高等部）>	
双葉郡は自分たちだけではなく沢山の人が関わっていてその人たちと <b>地域を創造している</b> んだなという実感が得られた	当時はコロナウイルスのせいでリモートだったがたくさんの学校の人が参加しており実際に意見交流を行なったから
考えて、さらに考えて、改善してを繰り返し、 <b>より良いものを作ろうとする力</b> 。	商品開発学習のとき、お客様方が喜んでもらえるようなデザインなどを考える機会があり、今でも活かせていると思うから。
<大学生>	
ふるさとの良さを分かりやすく伝える力、他の <b>発表に意見を持つ力</b> 。	全員がサミットで発表する機会があり、また他の町村の発表を聞き、感想を言ったり書いたりする機会があったから。
<社会人>	
年代がバラバラでもみんなが話し合える、考えることができる場合は視点や頭の使い方が違うのでいい刺激になりました。そういった視点の切り替え方は身についたと思います。	何かアイデアを出す時に「小学生の自分なら…」と <b>視点を変えると、おもしろいアイデアが出せる</b> ので。

ふるさとに貢献する力。ふるさとへの思いを第三者へ伝える、共有すること。	自身の学校の中でのふるさと創造学で考えた事を形に出来た場だったと感じます。さらに他の学校、地域の活動に触れ、 <b>周りに伝える事の大切さ</b> を感じられたと思います。
復興の先駆者としての意識を高め、自分たちになにができるか、探求する意識が高まった	双葉郡内の町村、小中高校の生徒と話し合い、発表を聞くことで、多様な価値観に触れたから
<b>(3) 小学校の「絆づくり交流会」(中・高・支援学校生は「中高生交流会」)</b>	
<b>① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか(どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか)。</b>	<b>② その理由(どうしてそう思うのか)</b>
<小学生>	
他の人たちと分け隔てなく接する力	絆づくり交流会では、他の学校の人たちとグループになり、一丸となってゲームを楽しくできたからです。
他の学校の方と協力することで、コミュニケーションの力がついたり、自分の意見を伝えたら相手がどう考えるかなど、たくさんの学びがありました。	ちがう学校、ちがう学年の人と関わることで、いつもとはちがう体験ができたため、たくさん学べたと思います。
<中学生(中等部)>	
他学校の生徒と交流し、コミュニケーション能力を向上させる力	他学校で初対面の生徒も多い中、交流することで自分自身のコミュニケーション能力を向上させることにつながるため。
普段接さない方々と交流することでコミュニケーション能力を身につけたり、講師のみなさまからの講演などを通して、 <b>新しい自分の可能性などを考える時間</b> になりました。	交流会が終わった後に講師の方のお話について自分も実践してみたいなど思ったり、苦手なことだったけど自分にも意外とできるということを知り興味を持ったことがあったから。
普段関わることのないような人と協力する力やグループをまとめる力。	絆づくり交流会の後、学校行事等や探究活動でクラスメイトを引っ張ることができたから。
<高校生(高等部)>	
双葉郡内の同学年や同世代の人達と絆などをふかめる力	実際に友達を作って仲良くなれたことがあったから。



自分のことを考える力。	将来の夢のお話になった際、夢についてのアドバイスをもらってから、自分には何が必要なのだろうと考えるようになったから。
<大学生>	
他の学校の生徒と協力しながら物事をやり遂げる力。	中高生交流会では、様々なワークショップに分かれて普段関わりのない生徒と一緒に活動する機会があったから。
<社会人>	
震災が起きてから町や村に戻ってきた方がどこも少ないと思う。その中で郡を通して絆を深めていきたいという気持ち	人数が少ないからこそお互いに助け合えると思うから
部活動で他県の高校生と交流したことがありますが、出身地が違ふと考え方がこんなにも違ふのかと驚くことが多かったです。同年代でも少し大人びてみえたのを覚えています。(2)と同じで視点の切り替え方が身についたと思います。	住んでいる地域・環境でも考え方は変わります。実際に住むことは難しいですが、住んでいる人から話を聞くだけでも共有出来て勉強になりました。
<b>(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動</b>	
① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。	② その理由（どうしてそう思うのか）
<中学生（中等部）>	
双葉郡の中学校生徒会一員として他学校の生徒会とも交流し、双葉に対する課題や願いを考える力	学校としてだけでなく、郡の代表として交流をし、さまざまな意見を出し合えるため。
双葉郡がどうなったらよくなるかを考える力、社会のことについて考える力がつきました。	普段、地域のことを考えて生活するようになったと思ったから。
<高校生（高等部）>	
コミュニケーション能力や、他の生徒のために出来ることを考える力	生徒会として他の生徒に何ができるか、何をすればいいのかをよく考えていたから。
話す機会がない他校の生徒と話せることはとてもよかった	高校生とも話すことがあったので高校生になったらできることがわかったり中学生が探究のすごさを理解できる数少ない場だった
<社会人>	
コミュニケーション	他の人と関わるのがすごく楽しかった。

2. これら「ふるさと創造学サミット」「絆づくり交流会」「中高生交流会」「生徒会連合」の行事や活動をふくめて、「こうすればもっと勉強になるのになあ」「もっと楽しくなるのになあ」と考えることがあれば、それはどのようなことですか？	
<小学生>	
いろいろな体験をしたりみんなが関わられるようにするといいです。	
もっと地元の人や現地の人に話を聞いたり実際にやったりしたい	
<中学生（中等部）>	
中高生交流会が生徒会以外の生徒があまり交流になっていないと思うのでもっと交流できる何かをしたらいと思う	
対話や質疑応答の時間を増やせば満足に意見交換ができ、お互いの探究活動がよりよくなったり、自分の知りたいことをより深めることができたりするのではないかと思います。	
<高校生（高等部）>	
先生がこれをしましょうあれをしましょうではなく、本当に子供たちの交流を目的とするならば子供たちが何をしたいかを聞いて、町の発表なども大切ですが、遊びなども含めたりしたらもっと楽しく交流できると思います！	
ふるさと創造学サミットの際、保護者様方も見学に来たほうが良いと思う。	
<社会人>	
いきなり知らない人同士で話す場合もあるので、直接話すだけでなく大きな紙を敷いて、何か書きながら話すのが良いと思います。また、グループで動く際は一人ホスト役がいると円滑に進むと思います。	
子どもに対しての貴重なインプットの機会であるため、アウトプットの機会を作ること（発表会など）でより自身の学びを具現化できると感しました。	
3. あなたが通学する小・中・高・支援学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、①勉強になることはどのようなことですか？②どうして、そのように思いますか。	
① 勉強になることはどのようなことですか？	② どうして、そのように思いますか。
<小学生>	
自分が知らなかった町村の特産品や、それぞれの町村の行事などが知れた。	交流や発表し合えることで、お互いの町村のことがわかるから。
水素の良いところ、使い方などを発表したり、哲学対話をするのが勉強になると思う。	将来、発表したりすることにつながると思ったから。
<中学生（中等部）>	
地域貢献出来てるなー？	調べたり聞いたり話したり、インプットからアウトプットまできちんと出来てる状況
町の人々の職業や町の課題、改善点を深く知れること。	この学習がなかったら自ら調べることもなく、町のことをよく知らずに終わっていたと思うから。

	また、町の人の職業を知ることによって自分の将来にも役立てることができるから。
<高校生（高等部）>	
他の学校の人々の発表の仕方や、他の学校や町でどのような活動をしているかが1番勉強になりました。	自分の町と比べた時に、同じ年代の人たちがこういうことをしているんだとしたら、自分の町でもできるかと思ったりしました。特に私の中では、商売系のが印象に残りました。町の特産物や自分たちで作ったものを売って、そこからどう町づくりに繋げていくかなど、他の町では復興のために何をしているかなどがサミットではよく学習できました。
<大学生>	
探求活動の基礎的な方法を学んだり、震災以前のふるさとをあまり知らない我々が、ふるさととしっかり向き合える時間が確保されていることが良いと思う。	ふるさとと創造学のような探求活動を小中学校から行うことで、高校や大学の研究に繋げることができるから。ふるさとと向き合う時間が確保されていることで、ふるさとへの愛着心が育まれるから。
<社会人>	
自分が住んでいる町のことを知るの、ゆくゆくは地元に戻って何かしたいというきっかけになります。勉強になるとはまた違うかもしれませんが、どういう経緯で、どんな人が動いたから今の状況になっていると知ることは歴史を学ぶ以上のものだと思います。	今、地元の中学校に勤めていますが、東日本大震災の実態は知っても、そこにどんな感情があり、どんな頑張りがあったのかを知る生徒は少ないです。また、震災を暗い、嫌なことだと思っている生徒もいます。人の思いを知れば震災をネガティブなものと思わないのではないかと思います。
4. あなたを始めとする双葉郡内の小・中・高・支援学校生が、①これからさらに勉強していかなければならないと考えることはどのようなことですか。②どうして、そう思いますか。	
① これからさらに勉強していかなければならないと考えることはどのようなことですか。	② どうして、そのように思いますか。
<小学生>	
東日本大震災をもっと知りたい	生まれてなくて知らないから
福島県の防災についてさらに勉強した方がいいと思う	防災について勉強したら災害時に役にたつから
<中学生（中等部）>	
社会に繋げていくように勉強すること、社会で生きるために何が必要か。	それぞれの教科で学んでいることを社会に出ても使えるようにしたいと思うから。

東日本大震災の被害や原発事故、津波の教訓	福島県民として背負っていかねばならないものだから
<高校生（高等部）>	
被災した地域の本当の姿について	既に記憶は残っていても東日本大震災を経験したという子供達は中学生以上になってしまい、いまの小学生、そして中高生など多くの子供たちはその地域に住んでない限り地域の現在の姿を知ってもらわないといけないと思うから。
自分の町のことで何を伝えていくことが大切なのかを考えることだと思います。 反対に今までなかったものを作ったりして新たに今までと違う町の印象を持ってもらえるような活動をするのもいいと思います。	今まで復興、復興とたくさんの町の良さなどを伝えてきましたが、反対に今までとは違って新しいことを始めたりして、昔の浪江町を取り戻すのではなく、 <b>新しい町を自分たちでつくっていくのもとてもいいな</b> と思ったからです。
<大学生>	
<b>震災後に生まれた子供たちに、どのように震災の経験を伝えるか、考える必要がある。</b> また、ふるさとを知る段階からふるさとを伝え、再生する段階へと探求活動のテーマを移行すべきだと考える。	震災後に生まれた子供たちに、震災の経験を風化させるべきでないと考えるから。探求活動のテーマを移行していくことで、ふるさとの再生に近づくと考えているから。
エネルギー政策	エネルギーが無ければ私たちの生活は成り立たない。原発再稼働の是非、再エネの推進や廃炉の問題も元を辿ればエネルギーの問題で、それは地球温暖化や電力価格、経済発展にまで影響する。1Fのある双葉郡の学生はエネルギー政策（特に原発再稼働の是非など）について環境へのインパクトや経済、国際情勢など多角的に分析しながら自分の意見を言えるようになる責任があると思う。
<社会人>	
震災の復興でなく、発展するために必要なことだと思います。	震災から10年以上経過しましたが、いつまでも「復興」と言ってもらえません。次に進むためにも、震災以前より発展するにはどうすればよいかを勉強してほしいです。
IT やグローバルに触れられる勉強	近年のグローバル化や急速な情報化、技術革新は注目すべきことであり、郡内の学生たちにはそんな <b>世界を引っ張って</b> いけるような大人になってほしいため。

<b>【全般に関して】</b>
<b>5. あなたが通学する小・中・高・支援学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと（生徒や先生のこと、学習や生活のことなど）は、どのようなことですか。</b>
<小学生>
児童生徒と先生の仲がいいこと。人数は少ないけど、それを感じさせないくらい、みんな仲良し。
私の学校は <b>難しいことにも一生懸命に取り組む</b> ことが素晴らしいところ
<中学生（中等部）>
先生方がとても親身になって一人一人の学習内容を一緒に考えアドバイスしてくれる。 一人一人の <b>学ぶ意欲が強く、興味を持って調べている</b> ことが面白かった。 学校内でも発表の場が沢山あるため、緊張はするが、大勢の人前でも話すことが億劫でないこと。
演劇や哲学対話などのほかの中学校にはない授業ができる。
<高校生（高等部）>
先生方が子供たちの意見をしっかりと取り入れてくれるところだと思います。また先生方も最善を尽くして活動させてくださっていることが伝わってくるので凄くいいと思います。あとは人数がまだまだ少ないので、 <b>少ないからこそ先生、生徒関係なく、みんなが仲良い</b> ところですかね！ クラスメート、先輩方、先生方とっても優しいく、分からないところがあったら、分かるまで教えてくれます。私は、数学がすごく苦手だったけれど、授業でとてもゆっくり分かりやすく教えてくれるので、追いつけています。
<大学生>
<b>多様なバックグラウンドや目標を持った人たち</b> (生徒に限らず、先生やカタリバ、地域の住民)がいること。
<社会人>
当時の浪江中学校は本当に全て自慢したい事だらけです。生徒はいじめなど一切なくみんながみんなを認め合っていましたし、喧嘩することもありましたが全員で集まり話し合って仲直りをしたりして、常に笑いの絶えない教室でした。先生方も本当に素晴らしい先生方で、私達の学年は特に先生方に救われていたと感じます。私達と一緒に笑ってくれる先生方でした、私達のクラスには小学生の頃に不登校などの問題を抱えていた生徒が何人か居ました、ですがその生徒達も浪江中学校での生活を通じて前向きに積極的に活動できるようになっていきました。担任の先生が「ここ（浪江中学校）は充電するところ」とおっしゃっていた事は私達みんなが救われた言葉だったと思います。授業中、給食中、部活動中、清掃中など本当に常にみんなが笑っている学校だったと思います。正直普通だったらふざけすぎなくらいだと思いますが、やる時はしっかり真面目にやる、楽しむ時は思いっきり先生も生徒もみんなまでふざける！そんな所が私達は最高に大好きでした。 ふるさと創造学でも私達なりの学習の仕方をしていたなと感じます。私達のクラスは先程からの話で何となく分かるかと思いますが座学はどちらかというと向かない方でしたので、 <b>先生方は私達がいかに楽しみながら学べるかを考えて</b> くれていました。みんなで紙芝居を作ったり、映像を

<p>作ってみたり、劇を試してみたり、実際に出掛けてみたりととにかくアクティブに動いていました。そのおかげで私達はふるさと創造学=楽しいという気持ちがあり、積極的に活動できていました。今もたまに中学時代の友達と話することがありますが、いつのまにか中学校の時の話になり、中学校もどりてえ〜！っといつも言い合っています。私には本当に自慢の中学校です。</p>
<p><b>6. あなたが双葉郡の学校で学んだことが、大学での学びや今の職業に活かされていることは、どのようなことですか？（大学生・社会人のみ回答）</b></p>
<p>&lt;大学生&gt;</p>
<p>ふるさと創造学を通して、大学では政策学やまちづくりの研究をしようと考えようになった。また、ふるさとを知ることで、ふるさとを守りたいという感情が芽生え、将来はふるさとで働きたいと思うようになった。</p>
<p>&lt;社会人&gt;</p>
<p>地元で働けていることが一番だと思います。地元を知ったからこそ、ここで役に立ちたいとおもったので。</p>
<p>村の文化や歴史を学ぶ機会が多かったため、ふるさとの伝統文化を守っていききたいと強く思うきっかけとなり、村の役場職員という今の職業につながったと感じている。</p>

(イ)教職員、教育関係者 ※主な意見

<p><b>【学習に関して】</b></p>	
<p>1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小・中・高・支援学校が、みんなで取り組んでいる双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについてお聞きします。次にあげる（１）～（４）の学習を通して、子どもたちには、①どのような力が身についていると思いますか。もの見方や考え方はどうでしょうか。</p> <p>②どうしてそう思うのか、できればその理由もお願いします。</p>	
<p>(1) 各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」</p>	
<p>① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</p>	<p>② その理由（どうしてそう思うのか）</p>
<p>&lt;教職員&gt;</p>	
<p>主体性や協働性に加え、課題発見・解決力やプレゼンテーション能力が育成されているように感じます。</p>	<p>教員主導ではなく、生徒が主体的に地域と連携して取り組む様子や自分の考えとして堂々とプレゼンテーションを行っている様子を見ると特に感じます。</p>
<p>地域の「ひと」「もの」「こと」を探究する学びを通して、地域の文化や未来について深く考え、発信することの大切さを学ぶことができている。また、情報を集め、整理・分析して上手な伝え方（プロセスと結果）を身に付け、表現</p>	<p>自分のふるさとの伝統や文化、課題等を自分たちで考えて調べる中で、個人での学びやグループでの学び合いが充実してきた。また、地域人材との連携や行政との関わり合いなど、連携・協働する学習が情報の発信の仕方</p>

力が向上している。	や表現力に役立っている。
総合的な学習の時間を核とした探究的な学びを通して、課題設定力、情報収集力、整理分析する力、図や写真・表などを用いてまとめる力、発表する力など課題解決能力が身についていると感じる。	ふるさと創造学を通して、地域の現状を知ること、地域の課題が明らかになり、地域をより良くしたいという思いを抱くことで、主体的に課題解決に取り組むことができるから。 また、ふるさと創造学に継続して取り組んでいることで、地域との関わりが深くなり、地域の一員として、よりよい地域の未来を考え、そのために、今自分にできることは何かを考えることができているから。
能動的市民性、社会的課題に関する知識・理解、協働する力、創造力、自分を変える力（メタ認知）	フィールドワークで学校の外に出て、実際に地域について学ぶことで双葉郡という地域と出会う。そこで多くの大人と関わることで、その人たちをもっと知りたいと思うようになる。探究を進めていくうちに、「地域のあの人に相談してみよう」や「あの人たちの困りごとを解決したい」など、具体的な顔が浮かぶことで探究のサイクルがさらに回っていく。具体的に生徒達が地域課題を意識したり、思ってもなかったような成長をする場面をよく目にします。それは、探究を通して地域に出て、それによって多くの発見があるからだと思います。自分が社会を変える一員であるという意識が、多くの方と関わることによって芽生えるような気がします。これは、学校の中だけでは絶対に起こせない生徒の変容だと思います。
＜教育関係者＞	
自分たちで暮らしの中にある課題を考え、地域に出てその背景を探り、改善案を考え出し共同でそれを試してみると言った対話的学習力、そこからさらなる課題を求める共同的・協働的な探究力	ふるさと創造学の学習活動を共同で展開している子どもたちの工夫や話し合う力およびその内容等から。また、創造学の探究活動の中で地域の人々ともつながり学びを広げようとしている様子などから。
<b>(2) 年末に開催される「ふるさと創造学サミット」</b>	
① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	② その理由（どうしてそう思うのか）
＜教職員＞	
発表するために、資料を分析したり整理したり	本校のような小規模校では、校内でのディスカ

<p>する中で、まとめる力や表現する力が育っている。また、他校の発表を聞く中でものの見方や考え方も育成されていると思う。特にふたば未来学園の発表はとても参考になっている。</p>	<p>セッションで思考の深まりがあまり感じられない。他校生のさまざまな考えや意見に触れることは小規模校にとってはとても貴重な体験となる。</p>
<p>「他者を意識した表現・発信」をする力が伸びていると思う。これまで「他者を意識」ということで、プレゼンテーションのスライドも「分かりやすく作ろう」という工夫が各校で見られたが、コロナ禍のオンライン開催の中、ややもすると気を遣った演出が感じられる発表もあり、いかがなものかと感じていた。それが、対面開催が再開され、「対話を重視したセッション」が掲げられる中、真の意味での「他者を意識した表現・発信」に向けた工夫が行われたのではないかと考えている。もちろん、発表を聞くだけでなく、他者と対話することで「ものの見方や考え方」も広がっていくであろうし、発表者、参観者、両者にとって学びの多いサミットになったのではないかと考える。</p>	<p>①でも述べたように、綺麗な発表をし、出された質問に答えるという形式では、発表する生徒の表現力は伸びるかもしれないが、それ止まりという感じがする。場合によっては、発表する生徒も発表原稿の朗読に集中してしまい、他者への意識がなくなってしまうことも考えられる。それに対して「対話を重視したセッション」であれば、必ず他者が存在し、その考え方を理解し、それに噛み合った自分の発言が求められる。実際に対話を行うにあたっては、発表する側の人数や、参加者の数によって工夫は必要であろうが、いずれにしても、その学びは絶大であると考えている。</p>
<p>町村や学校種の垣根を越え、普段では経験できない課題の共有や情報の共有を通して、多種多様な意見や発表を観ることで、我が町の魅力の発信や再発見、課題を見つけての解決方法から探る未来のふるさとを学ぶことができている。</p>	<p>自分たちの町についてもそうだが、郡内の各町村のふるさと＝双葉郡であったり、探究して学ぶ姿勢が身についていく姿を見ることができた。また東日本大震災からの双葉郡の教育の復興についても学ぶことができていると考える。</p>
<p>プレゼン力、他、能動的市民性、社会的課題に関する知識・理解、協働する力、創造力、自分を変える力（メタ認知）</p>	<p>大きな理由としてはフィールドワークで学校の外に出て、実際に地域について学ぶことで双葉郡という地域と出会う。そこで多くの大人と関わることで、その人たちをもっと知りたいと思うようになる。探究を進めていくうちに、「地域のあの人に相談してみよう」や「あの人たちの困りごとを解決したい」など、具体的な顔が浮かぶことで探究のサイクルがさらに回っていく。具体的に生徒達が地域課題を意識したり、思ってもなかったような成長をする場面をよく目にします。それは、探究を通して地域に出て、それによって多くの発見があるからだと思います。自分が社会を変える一員であるという意識が、多くの方と関わることによって芽生えるような気がします。これは、学校の中だけで</p>



	<p>は絶対に起こせない生徒の変容だと思いますが、さらに同じように活動をしている双葉郡の他の学校の取り組みを知ることも大きな刺激になっていると感じます。また、双葉郡内唯一の高校として、自分たちが彼らに良い影響を与えられるように、より一層探究活動を頑張ろうという生徒が増えていると感じます。外に出て発表する場があるというのはありがたいです。</p>
<p>&lt;教育関係者&gt;</p>	
<p>各学校で取り組んできた「ふるさと創造学」の成果を、クラスや学校の枠を越えて、共同的に社会に発信し、そこで出された意見等に傾聴しながら課題に再度向かいなおすと言った共同的・協同的な学習力や探究力。ふるさと創造学の学習を展開する過程でも、地域住民たちからも学び続ける社会的関係力。</p>	<p>サミットで初めて出会う他校の子どもたちにふるさと創造学の成果を力強く発表し、その意見を受け止め、再度、説明しなおすなどの&lt;対話的学習&gt;を展開し、その経験から次の課題を見つけようと、子どもたちは活動を展開している。子ども同士だけでなく、ふるさと創造学の展開過程では地域調査や地域住民からのヒアリング調査なども展開しており、地域社会・その住民ともコミュニケーションを繰り広げ、社会的関係力を鍛えている。</p>
<p>(3) 小学校の「絆づくり交流会」(中・高・支援学校生は「中高生交流会」)</p>	
<p>① 子どもたちにはどのような力が身につけていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</p>	<p>② その理由(どうしてそう思うのか)</p>
<p>&lt;教職員&gt;</p>	
<p>「どのような力」と言うよりも、「ものの見方や考え方」の広がり大きいと思う。</p>	<p>各界の一流と言われる講師陣を迎え、第一希望のクラスに入れた生徒はもちろん、そうでないクラスに入ったとしても、それぞれの講師の方々の話(人生経験やものの考え方、仕事や学ぶことに対する姿勢等)は、驚きと感動である。よく「〇〇先生の講演会(セミナー)があるから行ってみよう」と気軽に行ける場所に住んでいない生徒たちにとって、こうした機会を与えられるというのは、これからの人生において大きなプラスになると考える。</p>
<p>双葉郡の各町村の小学生との交流や積極的な意見交換を通して、ふるさとについての意識や愛着が高まったと思われる。また、卒業生である中高生のボランティアを見て、将来やってみたいと思った児童もいたのではないかと思う。</p>	<p>普段、他校の児童との交流がほとんど無く、当校の児童で参加していることから、自分の町に対する意識は大いに高まったと思う。また、交流を通して、コミュニケーション力や表現力は育っていたと思う。</p>

<p>積極性、表現力、コミュニケーション力、創造力、未知のものに挑戦することが楽しいと思えるようになる。</p>	<p>様々な分野のプロの方と出会うことで、自分の中の狭い価値観を壊す良いチャンスだと思います。こんな大人もいるんだ、こんな世界があるんだ、と思えたことで、具体的な目標が見つかる生徒もいるのではないかと思います。また、学年も学校も超えて一緒に活動することであらたな仲間が見つかったり、同じ価値観の友人ができたりというのもとても良い活動だと思います。</p>
<p>&lt;教育関係者&gt;</p>	
<p>小学生の横のつながりだけでなく、中高生の縦のつながりも感じられ、町村の垣根を超えた仲間づくりという趣旨に沿って交友関係を広げようとする力が育っていると考える。(絆づくり交流会)</p>	<p>小学生時代にこの交流会に参加した中学生が実行委員として企画・運営に携わっており、後輩のために積極的に行動する様子がかがえるため。</p>
<p>互いの様子を読み取る力。様子を確認しながら助け合い一緒に活動を楽しく展開する力。「絆づくり交流会」の活動を支援する中学生たちは、直接の後輩の枠を越えて、小学生を理解しどんな方法で交流会活動を支援することが適切かを考え、組織的に交流会を運営者の一員として実践する力。</p>	<p>初めて他校との子どもたちと出会いながらも、一緒に楽しく活動を仲良く展開する様子を見て。また、中学生たちは、小学生たちの活動の様子を見ながら、適切な支援を状況に合わせて展開していた。</p>
<p><b>(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動</b></p>	
<p>① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</p>	<p>② その理由（どうしてそう思うのか）</p>
<p>&lt;教職員&gt;</p>	
<p>第一にコミュニケーション力の育成に寄与していると思われる。このことに関連して、ものの見方や考え方の広がりも期待できる。第二に自分たちで計画を立て、実行し、振り返る(評価する)という、基本的な「活動の進め方」が身につくことが期待できる。もちろん、生徒会連合のメンバーには負担も大きいのかもしれないが、こうした活動は社会に出た時に必ずプラスになると考える。</p>	<p>本校のように極少人数の学校においては、「自分も3年生になったが、3年生ってこんなもんなんだろうか。普通の3年生って、もっといろんなことができるのではないか。」と、他者を見て自分の有り様を考えることができない。それは、1, 2年生についても同様である。したがって、ふたば生徒会連合の活動を通して、他校の生徒と交流できることは、本校にとって大変有意義であると考えている。メンバー同士が交流を通して仲良くなることはもちろん、もっと企画立案・運営の活動にも取り組むことを期待している。</p>

<p>オンラインでの交流だけでなく、直接対面した活動を通して、他者に対する理解を深めることができたと思います。また、リーダーとしての他との接し方や、どのように思考し実行すればより良い集団での活動ができるかについても理解を深めることができたと思います。</p>	<p>対面での活動後に、生徒たちの他校の生徒への印象や、この活動への意欲に変化が見られたためです。</p>
<p>&lt;教育関係者&gt;</p>	
<p>交流を通じて、生徒の主体性・協働性・創造性が育成されてきていると感じる。</p>	<p>オンラインでのビデオ会議に加え、令和6年度には4年ぶりの対面会議を実施し、町村混合で各町村のPRビデオを作成するなど、交流の機会と内容の充実が図られている様子がかがえるため。</p>
<p>双葉郡全体の中学校や高校について総体的に把握しながら、各自の学校を振り返り、各学校の課題の把握と改善について考え検討する力</p>	<p>所属校の情報を交換しながら、そこから双葉郡の全体的な学校や生徒会活動について把握し、所属校をより楽しい学校にしようと知恵を出し合っているのではないかと思う。</p>
<p>1. 主体的な学びの姿勢、2. 地域に対する思いの醸成、3. 多様性、論理的思考（ロジカルな説明等）、表現力、他者の理解、1. 協働性、2. 他者に対する理解に加え、プロデュース力</p>	<p>各イベント等に係わる企画および当日運営の姿を見ることができたから</p>
<p>2. これらの行事をふくめた、ビジョンの取り組みで、「こうすればもっとよりよいものになるのではないか」「子どもたちに力がつくのではないか」と考えることがあれば、それは、どのようなことですか？</p>	
<p>&lt;教職員&gt;</p>	
<p>これまでも述べてきたように、それぞれの行事、活動で改善が行われており、引き続きその方向で進めて良いのではないかと考える。「ふるさと創造学」であり、生徒の「創造性」を伸ばすためにどんな工夫が必要かという視点が大切であると思っている。</p>	
<p>&lt;教育関係者&gt;</p>	
<p>震災と原発事故を経験していない子ども達が、今後これらを後世に伝えていくとともにその教訓をどう生かして、VUCAの時代を力強く生き抜く力を身に付けるために、これまでの取組をどう変えて対応していくか考える必要がある。</p>	
<p>震災を経験していない子どもや双葉郡以外の地域から移住してきた子どもたちに加え、異動で双葉郡地域の過去や現状を知らない教員が増えてくる中にあるのは、ビジョンの理念・方針等の共有と継承を図っていくことが重要であると考え。ICTを活用して、これまでの双葉郡教育復興の軌跡についてまとめた共有ドライブを作成し、共通理解を図りながら今後の活動につなげていく方法も考えられる。</p>	
<p>ふるさと創造学・サミット等の振り返りを丁寧に行い、そこから見つける課題を次のふるさと創</p>	

<p>造学やサミットの展開につないでいくと言った蓄積的な展開を活性化すると、子どもたちの共同・協働的な学習力がより高まるのではないか。また、地域社会に出て学ぶ機会を、自分の居住地域だけでなく、他の町村の生活実態等についても学ぶ機会があってもいいかもしれない。サミットで聞いた他校の報告で気が付いたことや疑問に思ったことの検証作業・学習にもなる。</p>		
<p>現時点でも完成度は高い。さらに良くするためには、子どもたちの「力」を信じて、「失敗することも“学び”」という視点で、先生方の係わりを少なくすることも大切かと思いました。</p>		
<p><b>3. あなたの小・中・高・支援学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、特に大切にしていることは、どのようなことですか？（教員でない方は、大切にしてほしいことを）</b></p>		
<p>&lt;教職員&gt;</p>		
<p>児童の疑問や関心から学習を広げること。体験を通して自分事として考えること。</p>		
<p>自分の興味・関心から探究を始めることと、探究活動によって、自分の行動は社会を変えていけるという実感を持つこと。</p>		
<p>なるべく多くの機会を与えること（地域との出会い、人との出会い）で、自分も地域の一員であり、社会を動かす力があるということを知ってもらうこと。様々な体験を通してその中で自分の人生について考え、どんな大人になりたいか、どんな生き方をしたいか、自分が一番大切にしたいことは何かについて考えてもらうこと。</p>		
<p>様々な授業や体験活動を通じて、故郷や復興に関わることで、協働的に問題を解決する力やたくましく地域や社会で活躍できる人材育成を大切にしている。</p>		
<p>&lt;教育関係者&gt;</p>		
<p>ふるさと創造学・サミットの活動を通して、周りの子どもや他校の子ども、地域住民の方々から学んで気が付いたことや疑問に思ったことなどを確認し、次の学習へとつなぐ「省察的学習」の展開と継続を大切にしてほしい</p>		
<p><b>4. 双葉郡内の小・中・高・支援学校生が、①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えることは、どのようなことですか。②どうしてそのように思いますか。③そのためには、どのようなことが必要と考えますか。</b></p>		
<p>① これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えること。</p>	<p>② どうしてそのように思うか。</p>	<p>③ そのためには、どのようなことが必要か。</p>
<p>&lt;教職員&gt;</p>		
<p>社会の課題を自分で見つける力と自ら社会に参画しようとする態度</p>	<p>本校生は与えられたことについては真面目に取り組むが、それ以外については指示されないとできないことが多い。保護者の家庭教育力も決して高いとは言えない状況で、「自己教育力」「生きる力」を育てることは学校に与えられた役</p>	<p>失敗を恐れず、さまざまなことにチャレンジできる強い心の育成が必要だと思う。</p>

	割と感じる。	
<p>(1) 主体的に学ぶ姿勢、問題を見つけたり、その解決方法について試行錯誤したりする姿勢</p> <p>(2) 双葉郡の小中高支援学校生としてのアイデンティティ</p>	<p>(1) 知識・技能はもちろん、思考力・判断力・表現力を育てる取り組みは各校でなされている。しかし、主体性については、行事などで指示待ちになってしまったり、やらされているように見える部分もある。</p> <p>(2) 震災を経験していない(覚えていない)生徒がほとんどになった中、多くの支援や善意のもとに教育環境や行事がなりたっていることを意識することが少ないと感じる。負い目や責任を感じて欲しいわけではなく、環境や周りの方々に感謝し、より自由に、より多く学び、世界や日本、双葉郡に学びを還元できるようになってほしい。</p>	<p>(1) 行事をこなすのではなく、行事をきっかけに学びをつかみ取れるように、日頃から、「なりたい自分」や「目指す生徒像」と自分自身を比較し、自ら学びに向かう環境を作ること。少人数の学校では生徒の負担感を減らし、心身ともに学びへの意欲がわく環境を作ること。</p> <p>(2) ふるさと創造学や中高生交流会などの延長で、他県、他地域の生徒と交流し、お互いの違いやそれを形成しているものに目を向けさせること。</p>
他者と協働すること。色々なことを見たり聞いたりすること。	小さいコミュニティの中で生活しているため、人間関係が固定化されていたり、経験不足のために、知らないことが多かたりすると感じるため。	様々な体験活動や交流活動を通して、他者と協力して取り組んだり、教師や親以外の外部講師から話を聞いたりする機会増やしていくこと。
双葉郡の課題と、全国や世界の課題とを重ね合わせて考えること。	双葉郡の混沌とした厳しい状況を、教科で学習する地理的・時間的に異なる事象と重ね合わせて思考することで、深い学び・概念的理解に繋がっていくことで、生涯にわたって生きて働く知識と学び続ける姿勢が身につくから。	ふるさと創造学教員研修
<教育関係者>		
児童生徒が将来の進路、目標を持つこと	地域に根差した企業、産業が少なく、職業人としての将来設計が描けない	キャリア教育、F-REI との連携、自立した社会人となる教育が必要。

【全般に関して】	
5. ①あなたの小・中・高・支援学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと。 また、②双葉郡の教育に関してのご意見などがあれば、ご自由にお書き下さい。	
① あなたの小・中・高・支援学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと。	② 双葉郡の教育に関してのご意見など。
<教職員>	
中学校の3年間は成長が目覚ましい。しかし、その成長の度合いは様々で、大きい学校では、リーダーとなって目立つ生徒もいれば、大勢の中に埋もれて目立たない生徒もいる。しかし本校においては、どの生徒もリーダーとなるべく指導・援助を行い、その期待に応えるように、どの生徒もリーダーとなって卒業していく。これは必要不可欠なことなのではあるが、本校の素晴らしさであるとも思っている。	サミットに向けての準備など確かに大変なこともあるが、逆に「ふるさと創造学」がなかったら、総合的な学習の時間もこれ程まで充実した学びにはなっていなかっただろうと思われる。そして、これだけ地域に目を向けるということもなかったと思う。先に述べたように、本校のテーマ・内容は毎年違う。例年通りはない。だから余計に大変なのかもしれないが、教員としての学びも大きい。
生徒会主催の行事等を積極的に開催していること。子ども達の「こんな学校にしたい」という思いをできるだけ叶えてあげることで、学校が楽しい、自分たちも学校のためにできることがあるという思いを持てるようにしている。	学校間、教員間で情報共有する場は必要かと感じる。双葉郡出身の教員は少なく、多くは新採用、経験5年程度の若手の教員が多い地域なので、双葉郡についての理解や双葉郡で教育活動を行う良さや課題について共有していきたい。
多様な子どもたちが互いを尊重し共生・協働する姿勢が文化として浸透している。	8町村で力を合わせて13年間進んできた実践は素晴らしい。各町村の復興の状況に違いが出ている今こそ、一層この取り組みを深化させ、子どもたちのふるさと創造学がきっかけとなって双葉郡が町村横断して復興に向かっていく動きを加速していきたい。
<教育関係者>	
子ども一人一人のよさを最大限に伸ばす環境（人・もの・こと）が揃っている。	今後ますます双葉郡の絆を深め、町村の垣根を超えた関係性を構築し、双葉郡の子ども達が双葉郡の復興のみならず世界に羽ばたく人材に育ててほしい。
(回答なし)	双葉郡のふるさと創造学・サミット等をはじめとする新しい教育改革とその実践は、少子高齢社会の減少が顕著に進む地方の学校教育にとっても示唆的な実践となるはずである。双葉郡の教育実践を社会的に発信し、あたらしい教育創造を進める多様な学校とネットワークをひろげ、実践のさらなる展開を可能とする社会的関

	係の構築も目指すことも大事ではないか。日本の教育実践の高度化を牽引する力と実績が双葉郡には蓄積され始めている。
--	---

(ウ)保護者、地域住民 ※主な意見

<b>【学習に関して】</b>	
1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小・中・高・支援学校が、みんなで取り組んでいる双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについてお聞きします。次にあげる(1)～(4)の学習を通して、子どもたちには、①どのような力が身についていると思いますか。ものの見方や考え方はどうでしょうか。②どうしてそう思うのか、できればその理由もお願いします。	
(1) 各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」	
① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	② その理由(どうしてそう思うのか)
<保護者>	
自分の町について調べる力、地域の人とのコミュニケーション力、仲間と協力して1つの事をまとめる力などを身に付けている。また、回を重ねる毎に、自分の暮らす町が置かれている状況にも、理解を深めている。	校内発表を拝見した時に、とても興味深い内容で『よく丁寧に調べたな…』と感心したため。
知りたい! やってみたい! 学びたい! この3つの事が身についている	学校に通わせてから好奇心、向上心が目に見えて分かるから
震災原発事故当時、幼かった子供たちにとって地域を知る良い機会になっている。	探究活動として双葉郡を深く知る機会が多く、復興活動や双葉郡の現状から必要な学びを得られているから。
課題に対して、解決する力やものの見方が出来る	楡葉中学校のキャリア教育で模擬会社を子供達は取り組んでいるが、様々なことに試行錯誤している様子が伺えるから
ふるさと創造学を通して、双葉郡の現状と課題を認識するとともに、地域の方々と触れ合うことでの交流とふるさとを想う心の情勢が身についていると考える。また、生徒自身が自ら考え、行動し、結果を発信する主体的な学びに繋がっている。	双葉郡内の学校で展開されている探究活動による。
(2) 年末に開催される「ふるさと創造学サミット」	

① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	② その理由（どうしてそう思うのか）
<保護者>	
<p>発表する力 物おじしない力 色々な意見を受け入れる力</p>	<p>沢山の人の前で発表すること。緊張するだろうに頑張っていますよね。 物怖じせず発表できると、すごく自信に繋がると思います。 沢山意見をもらえるので、多方面からの意見を受け入れ、更に考える力になると思います</p>
<p>サミットでの発表を拝見したことは無いのですが、多くの方がいる場所で発表する機会を与えて貰えることで、人前に立って発表する力が身に付く。</p>	<p>校内発表を拝見した際、子供達が堂々と発表する姿を見たため。</p>
<p>探究する中で仲間と議論を重ね作り上げ、人前で発表する力がついた。</p>	<p>地域を深く知る為、学校での探究授業というカリキュラムの中で深め合う事で、学びを深める力がついている。相手に伝える工夫から表現力がついている。</p>
<p>サミットに際し、自分でどのようにわかりやすく他者へ伝えることができるか、プレゼン能力のブラッシュアップに繋がっている。</p>	<p>多種多様な方々に発信する機会であるため。</p>
<地域の方>	
<p>他校の学生の研究テーマや探究の深さなどを知ることができるのはとてもいい機会だと思う。なぜそのテーマにしたのか、リサーチをどこまでしっかりしているのかなど、自分自身の状況と比較することで自分の強みや弱みを知ることができるのはよい機会だろう。そうした機会は確実にものの見方や考え方を多様にさせると思う。</p>	<p>学生数が少ない中の学びではどうしても批評的に自分自身の置かれている立場を考察することが難しいため。</p>
(3) 小学校の「絆づくり交流会」(中高生は「中高生交流会」)	
① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	② その理由（どうしてそう思うのか）
<保護者>	
<p>子供同士で考えて取り組む力がついたと思う。</p>	<p>普段は親に意見や助言を求めたりしているが、同世代の異学校の子達と交流して、ゲームをし</p>



	たりする事で自分で考えて行動し、それが、子供自身の自信に繋がったと思った。
他校の生徒さんとの交流ができる事からコミュニケーション能力がついたと思う	講師の方々の話を聞く事、体験する事で将来の夢ややりたいことへのアドバイスが良かったし楽しかったと聞いたから
協調性	学校はごく少人数なのですが、交流会に行くと友達が何人出来た！と喜んで帰って来ます。のちに再会できたりすると嬉しいみたいです。 やがて中学、高校でも会えたりすると心強い、友人となっていったりするようです。ありがたい
著名人との出会いから夢の実現に向けて具体的な一歩を踏み出す力がついた。	人間づくりの観点から、人生の先輩である著名人から直接話を伺い、成功に導く心の作り方を学んでいると感じる。
初対面での関わり方	普段人数の少ない学校で学んでいるため、閉鎖的になりがちなので、関わり方を体験する良い機会だと思う
<b>(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動</b>	
<b>① 子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</b>	<b>② その理由（どうしてそう思うのか）</b>
<保護者>	
責任感！	"学校代表としての責任感。生徒会は誰しもなれるものではない。特有の悩みや相談などしているみたいです
広い視野をもつ力	他の取組みなど広く情報を得る事が出来る機会であるため
8 町村での学習内容や取り組みの進捗状況の理解が深まった。	他校とのふれあいが乏しい地域環境であるが、生徒会連合での関りからお互いの情報を交換し理解することに繋がっている。
生徒会の運営に対し情報共有ができる。また双葉郡中高生交流会や双葉郡ふるさと創造学サミットの企画運営を手伝う機会があり、事業を実施するノウハウを学ぶことができる。	生徒会に入ってることで機会を得られるため。
双葉郡の色々な学校と交流出来て、とても刺激になっていると思います。	(回答なし)
<b>2. これらの行事をふくめた、ビジョンの取り組みで、「こうすればもっとよりよいものになるのではないか」「子どもたちに力がつくのではないか」と考えることがあれば、それは、どのようなことですか？</b>	

<保護者>		
交流会、ふたばワールドみたいに各町村を回ってはどうでしょう。自分の町、村で出来たら張り切りますし嬉しいんじゃないでしょうか。ホストタウンとしての仕事もあったら・子供たちは忙しいですが出来る範囲で		
調べて学習したことを、郡内だけでなく、県内の市町村にアピールしたり、宮城や岩手の被災地と交流し、お互いの街の復興状況やまちづくりを報告し合うことで、相互理解が深まり、その後の学習にも活かせると思う。		
保護者があまり認知していないと感じます。せっかく素晴らしい行事を実施してるのであれば、保護者を巻き込むことで子供たちの更なる発展が期待できるのではと考えます。		
合同行事が増えて、顔見知りになってくる事が体験出来ると、新しい環境に身を置いた時に人と関わる事が上手く出来るようになるのではと		
<地域の方>		
大人が求める児童生徒の像を無意識下に押し付けてないかということを考えることだと思います。児童生徒の好奇心をどのように焚き付けるか、また、身近なところにあるテーマから思考を深掘りし新たな学びを得ることで達成感と充足感を獲得できるかがより一層大切になってくると考える。		
<b>3. あなたの小・中・高等学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、特に大切にしていることは、どのようなことですか？（教員でない方は、大切にしてほしいことを）</b>		
<保護者>		
地域の人たちの思い。 じいちゃんばあちゃんの「これはなくさないで」という思いは繋いで行って欲しい だから子供達には沢山の人から話を聞いて、繋いで行って欲しい		
現在在籍している双葉郡の小中学生は、生まれた場所ではなく『育つ場所』としてのふるさとが『双葉郡』である子がほとんどだと思います。 ここでしか経験できないことを重ねて、『この学校、この町で学んで良かった』と思える時間を過ごして欲しいと思っています。		
子ども達の主体性。子ども達が自ら考え、行動しようという力。		
自分の住んでいる地域の伝統等を大切にしてほしい。		
<地域の方>		
世界がいかに複雑化ということを知ってほしい。複雑かつシンプルに答えを出すことが難しいからこそ、私たちは学び続け思考し続け、難しさの中で決断をしていかなければいけないことを楽しみながら学んでほしい。		
<b>4. 双葉郡内の小中高生が、①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えることは、どのようなことですか。②どうしてそのように思いますか。③そのためには、どのようなことが必要と考えますか</b>		
① これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えること。	② どうしてそのように思 うか。	③ そのためには、どのよう なことが必要か。

＜保護者＞		
放射能を必要以上に恐れない 防災について	放射能の事故地域に住む子供 だからこそ、きちんと学ぶ必 要がある。伝えていくのはこ の子達。  防災については日本中どこに いても、必要な知識。	双葉郡一円に分かりやすく誌 面をつくる。 サミットの防災会議を行 う。
人とのコミュニケーション力 や協調性。	社会に出て、やはりコミュニ ケーション能力は必須だし、 仲間と協力して物事を進める 能力を強めて欲しいと思っ た。	レクリエーション的な、自分 の学校ではない人との関わり を増やす。
自分の考えを常に持ち、それ を言語化し、人に伝える力。	日本の学校では、1つの正解 を求めるような学びが多いた め、そのような力が身に付き にくいと思ったから。	先生がサポート役となり、1 つの議題に対して、みんな で意見を出し合ったりなど、 ディスカッションの機会を増 やしていく。
発信力	福島国際研究機構が今後本格 化する中で、国内的にも国際 的にも注目されるため。	英語力とプレゼン力の向上が 必要。
＜地域の方＞		
芸術的思考、科学的考察、失 敗を繰り返す学びの姿勢、好 奇心を持つこと	お行儀のいい答えを出す子が 多い。学校の中で100点を取 ることに価値を置くより、社 会の中でいかに生きるかを考 えてほしいから。	教育の領域にもっと多くの 人を関与させるべき。先生の 役割がコーディネーターのよ うになり、さまざまな人から 児童生徒が学ぶ機会を増やす ことで、学ぶことの多様性は もっと育てることができる はず。
<b>【全般に関して】</b>		
5. 下記について自由にお書きください。		
① あなたの小・中・高・支援学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと。	②双葉郡の教育に関してのご意見など。	
＜保護者＞		
子供達だけでなく先生方、保護者、地域が関わり合える取り組みが多いこと	(回答なし)	

<p>先生方が本当に生徒を大事にしてくれるところ。個人にこれ程向き合ってくれた学校は他に無いのでは？と、ずっと思っています。</p>	<p>震災後の難しい状況の中で、児童、生徒達が生き生きと生活、学習できる環境を思案してくださっていることに感謝しています。</p> <p>この学校に転校してきた時は、生徒数の少なさに不安も沢山ありましたが、我が子が充実した学校生活を送っているのを間近で見て、安心しています。</p>
<p>探究活動を通し、深く学ぶ喜びを得ている。復興に向けて活動している方々に触れ心の成長も感じる。</p>	<p>もっと発信力を発揮してもらいたい。子供たちの考えが反映できるような仕組みを子供たち自身で作出す機会を作りたい。</p>
<p>探究活動・演劇ワークショップ</p>	<p>双葉郡外の者からの視点でいえば、双葉郡は伸びしろが大いにある地域だと感じます。他地域にはない要素を存分に活用し、魅力ある教育活動を展開することで、帰還者や移住者が増えていくことを願っています。</p>
<p>友達はいても学校が楽しくない、先生とも馴染めず不登校になっていたが、村の少人数の学校で、先生とも親しくなり、学校もクラスメイトも登校ペースに理解を示してくれ、少しずつ通えている。児童も否定したりせず、休んでることを気にせず接してくれるのはありがたい。</p>	<p>葛尾小学校の先生方には感謝ばかりです。</p>

## 2.3 双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて

(※「(イ)教職員、教育関係者」のみが対象)

### 《達成度について》

概ね高い評価である。全15項目中9項目において「A十分達成、Bおおむね達成」が8割を超える評価である。また、令和3年に実施した前回の18項目のアンケート結果と比較してすべての項目が向上している。

#### ◎特に評価が高かった項目

「ふるさと創造学の推進」	96.2%
「子どもたちの交流」	92.2%
「ビジョン事務局による運営」	92.0%

#### ●評価が低く「Cやや不十分・D不十分」が(3割程度)だった項目

「中高一貫校との連携」	32.0%
「教育支援体制の充実」	38.3%

### 《重要(必要)度について》

これについてはほとんどの項目で「A」「B」が8～9割の高い評価である。

#### ◎特に評価が高かった項目

「郡内8町村の教育環境の充実」	98.0%
「ビジョン事務局による運営」	94.0%
「双葉郡子供未来会議」	93.3%
「双葉郡地域学校協働本部の支援」	91.5%
「教職員の体制充実と指導力向上」	90.4%

以上が9割を越え、必要性が表れている。

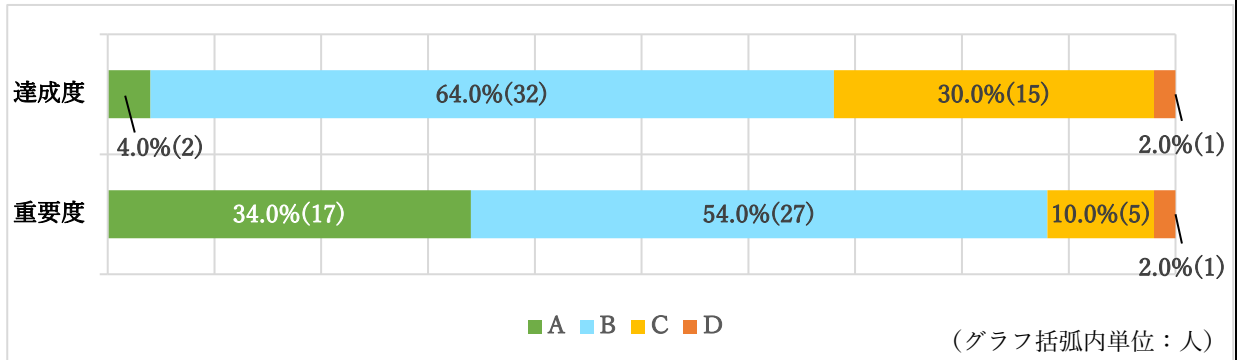
これまでのビジョンの取り組みの成果を実感し、今後もその取り組みが重要であると感じていることがうかがえる。

(イ)教職員、教育関係者

【双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて】																
<p>以下の項目は、これまでビジョン推進の「3つの柱」として掲げ、子どもたちや先生方、教育関係のみなさんが、努力してこられたことです。</p> <p>A～Dのあてはまる欄に○印をつけてください。不明なところは、お答えにならなくて結構です。</p>																
<p>① 「達成度」</p> <p>A：十分達成されている B：おおむね達成されている C：やや不十分 D：不十分、努力したい</p>	<p>② 「重要度（必要度）」</p> <p>A：さらに力を入れていきたい B：ある程度力を入れていきたい C：あまり力を入れなくてよい D：ほとんど必要はない</p>															
<p>1. 双葉郡ならではの魅力的な教育の推進による人材育成（柱の1つめ）</p>																
<p>(1) 子ども主体の学びと「双葉郡子供未来会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各取り組みに、子どもたちや保護者、地域の意見を取り入れるとともに、子どもたちの主体性を育み、考える力を鍛える「子供未来会議」の開催</li> </ul>																
<table border="1"> <caption>双葉郡子供未来会議の達成度と重要度の調査結果</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度</td> <td>4.3% (2)</td> <td>73.9% (34)</td> <td>19.6% (9)</td> <td>2.2% (1)</td> </tr> <tr> <td>重要度</td> <td>31.1% (14)</td> <td>62.2% (28)</td> <td>6.7% (3)</td> <td>0% (0)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(グラフ括弧内単位：人)</p>		項目	A	B	C	D	達成度	4.3% (2)	73.9% (34)	19.6% (9)	2.2% (1)	重要度	31.1% (14)	62.2% (28)	6.7% (3)	0% (0)
項目	A	B	C	D												
達成度	4.3% (2)	73.9% (34)	19.6% (9)	2.2% (1)												
重要度	31.1% (14)	62.2% (28)	6.7% (3)	0% (0)												
<p>(2) 「ふるさと創造学」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとへの誇りと自ら未来を創造する思いを育む「ふるさと創造学」推進</li> <li>学びを通じた交流を深め、成果を発進する「ふるさと創造学サミット」開催</li> </ul>																
<table border="1"> <caption>ふるさと創造学の達成度と重要度の調査結果</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度</td> <td>21.2% (11)</td> <td>75.0% (39)</td> <td>3.8% (2)</td> <td>0% (0)</td> </tr> <tr> <td>重要度</td> <td>44.2% (23)</td> <td>40.4% (21)</td> <td>13.5% (7)</td> <td>1.9% (1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(グラフ括弧内単位：人)</p>		項目	A	B	C	D	達成度	21.2% (11)	75.0% (39)	3.8% (2)	0% (0)	重要度	44.2% (23)	40.4% (21)	13.5% (7)	1.9% (1)
項目	A	B	C	D												
達成度	21.2% (11)	75.0% (39)	3.8% (2)	0% (0)												
重要度	44.2% (23)	40.4% (21)	13.5% (7)	1.9% (1)												

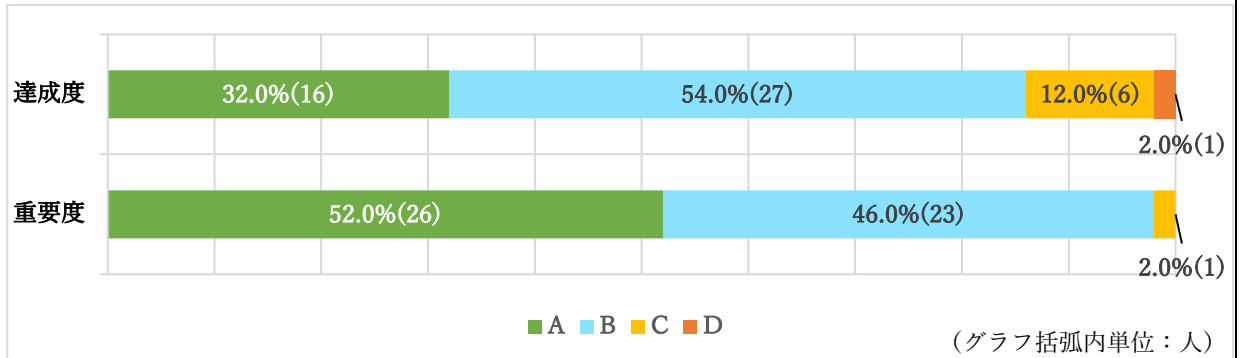
(3) ふたば未来学園中学校・高等学校との連携

- ふたば未来学園中学校・高等学校と郡内小中学校とが連携した、双葉郡ならではの魅力的な教育の推進



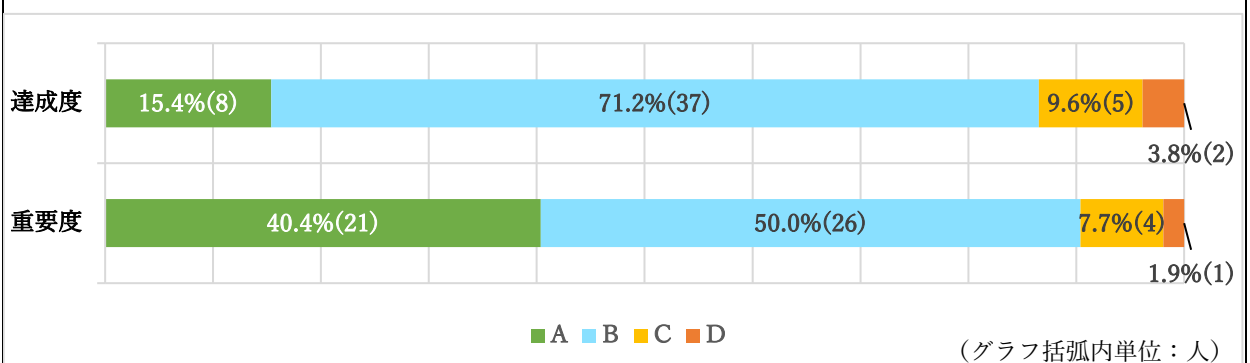
(4) 双葉郡 8 町村の学校教育環境の充実

- I C T活用や英語教育など、双葉郡ならではの町村一体となった推進と発信
- 帰還町村、未帰還町村の教育環境の充実



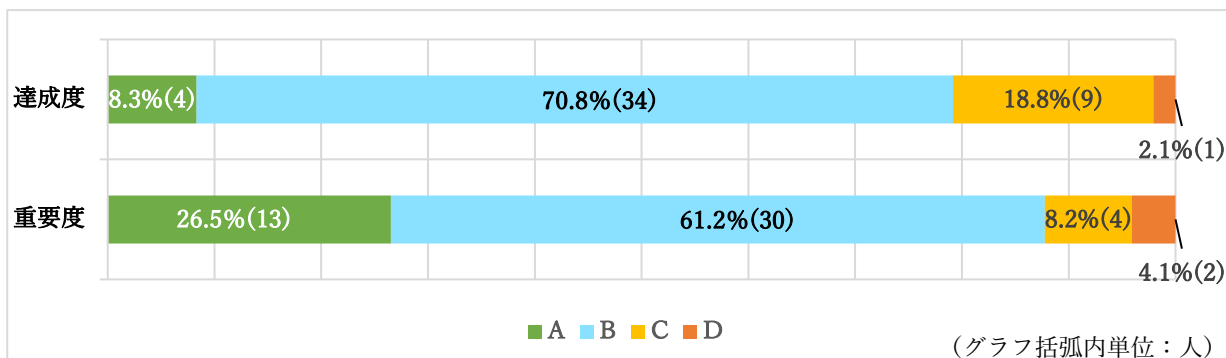
(5) 教職員の体制充実と指導力向上

- きめ細かな人的教育支援体制（教職員加配、S C、S S W、I C T支援等）の整備、充実
- 「ふるさと創造学教員研修会」「教職員による双葉郡子供未来会議」等の開催



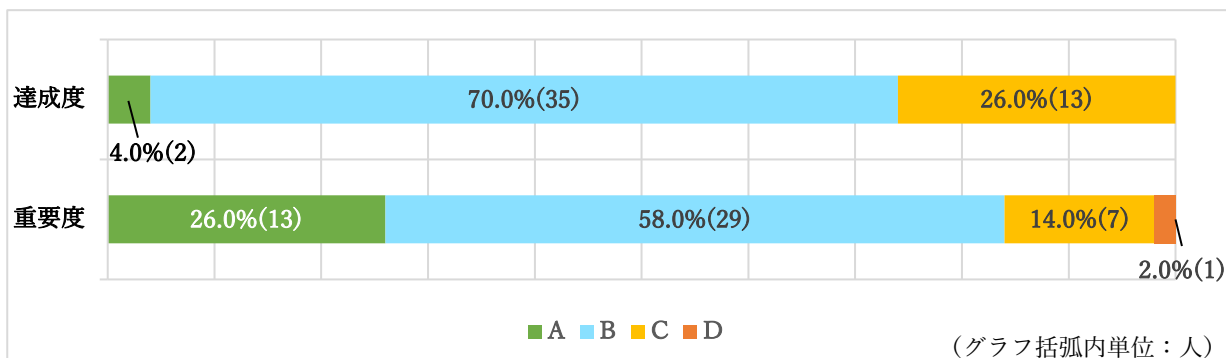
(6) 「ふたばの教育復興応援団」の協力

- 多様で実践的教育推進のための、応援団による授業や部活動、行事等への支援と協力



(7) 他地域との交流・連携

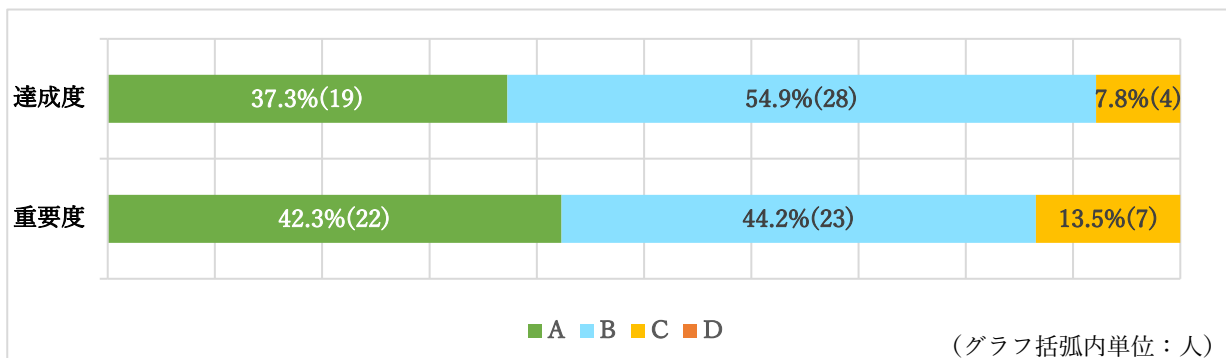
- 「ふるさと創造学」充実、波及のための、県内外他地域との学習交流
- 研修会参加や事例研究発表等を通じた教員交流



2. 教育を中心とした双葉郡の絆づくり (柱の2つめ)

(1) 子どもたちの交流

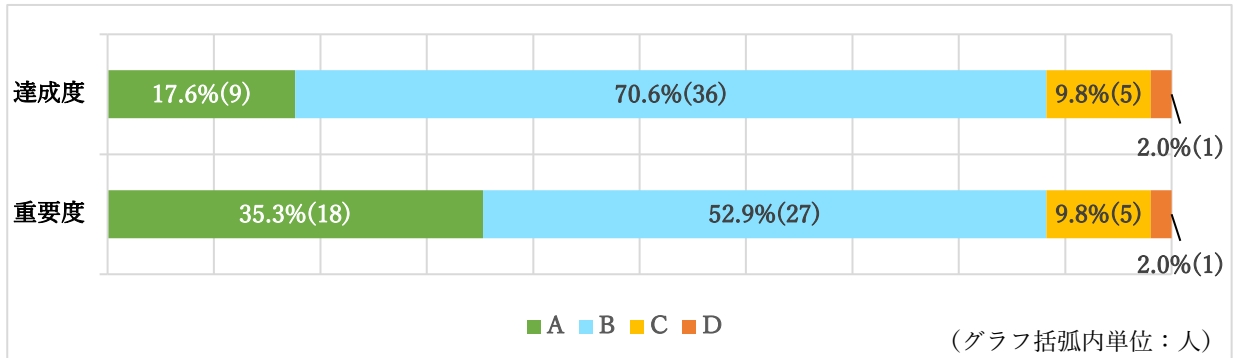
- つながりを感じ、ふるさとへの意識、愛着を高め、社会性を育む交流の場づくり (小学校絆づくり、中高生交流会、生徒会連合、サミット、合同授業等)





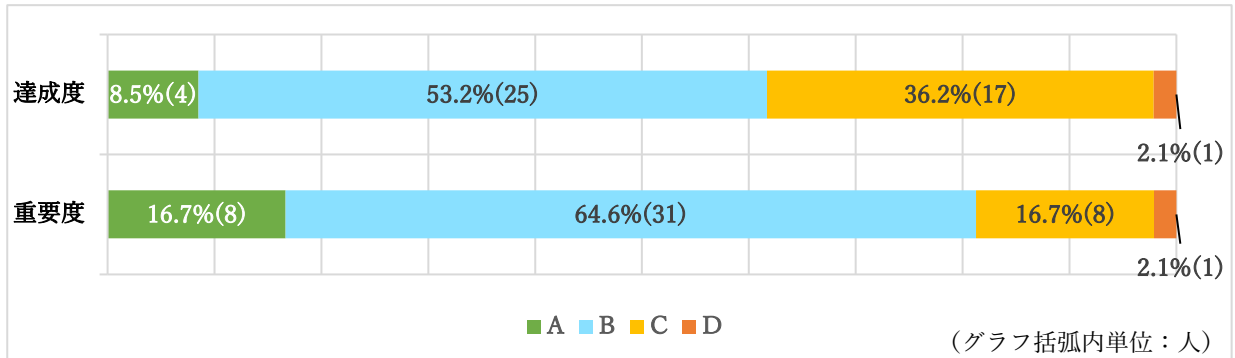
(2) 地域への情報発信と双方向のコミュニケーション

- ビジョンの目標や取り組みへの理解を促す広報誌の発行、Web発信
- 8町村、各学校間の情報共有、子どもたちによる学び、交流の場づくり



(3) 教育支援体制の充実

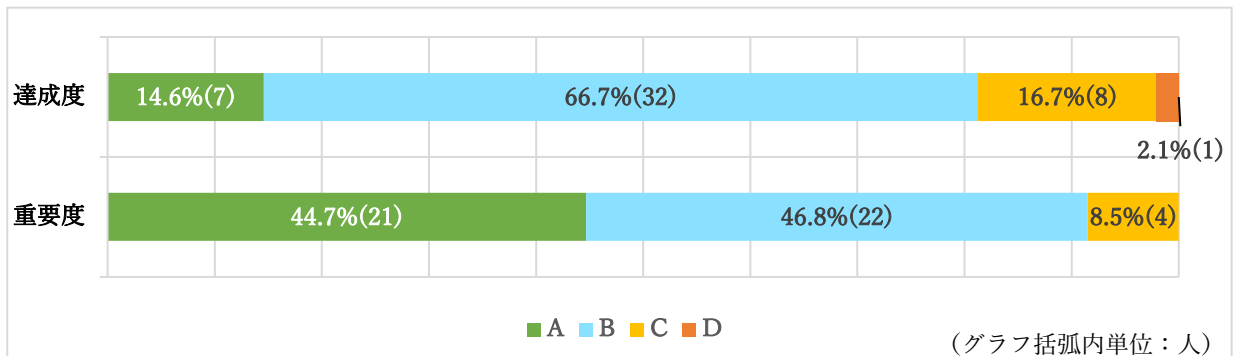
- 町村各拠点での学習会の開催、町村の枠を超えた相互受け入れ



3. 多様な主体との連携による教育と地域復興の相乗効果の創出（柱の3つめ）

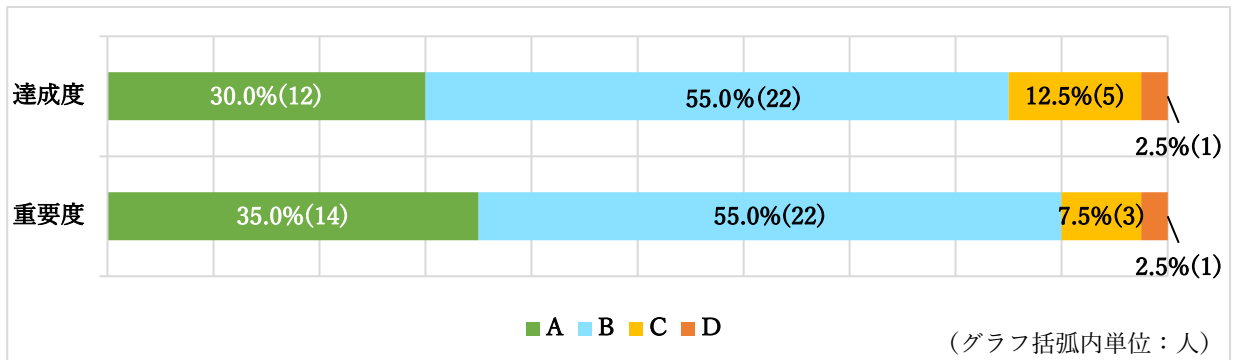
(1) 地域コミュニティとの協働

- 各校の取り組み推進のための体制整備、「双葉郡地域学校協働本部」による町村支援



(2) 中高一貫校における地域コミュニティとの連携

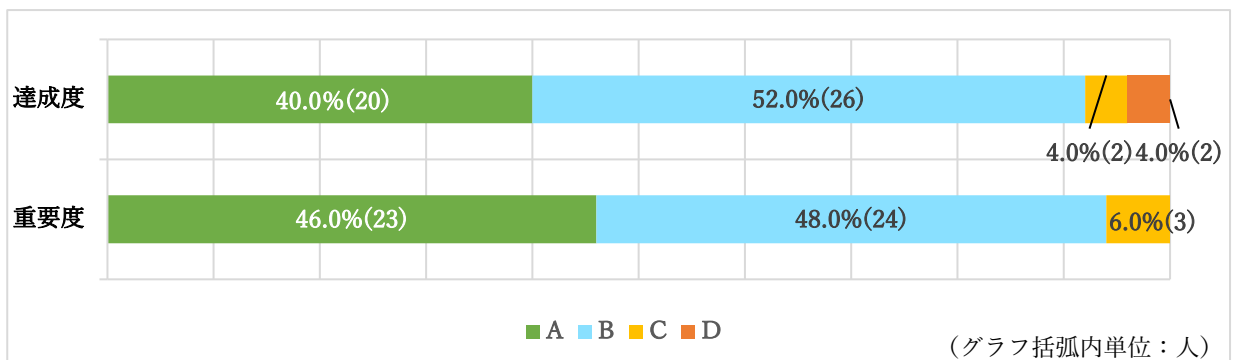
- ふたば未来において「ふるさと創造学」に取り組む子どもたちと、復興に関わる大人との交流の場づくり、教育活動の活性化



4. 取り組み推進のための体制

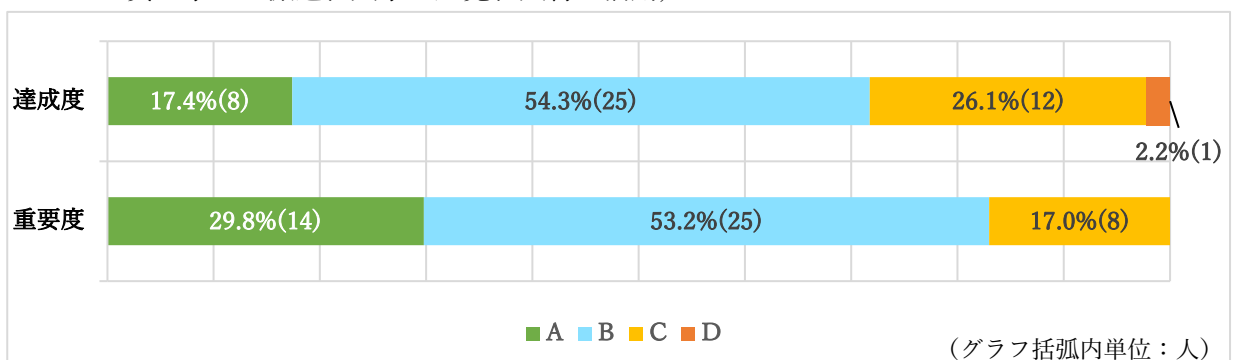
(ア) 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）

- 教育復興を推し進めるための8町村の連携、国・県・関係機関の協力をまとめるビジョン事務局の継続設置、運営



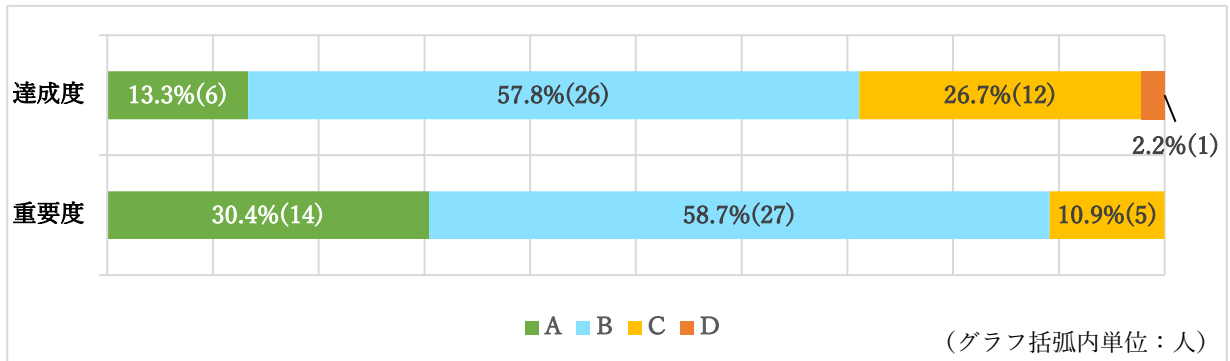
(イ) 大学・大学院との連携

- 双葉郡の教育復興ビジョン推進を支援し、課題解決を支援する大学等との連携（教職員や学生の派遣、大学の知見、人材の活用）



(ウ) 企業、NPO等との連携

- 双葉郡の課題と向き合う実践的な人材育成のための連携、協力



5. 自由記述 \*これまでの成果をどのようにとらえますか？ 次年度以降に向けた改善・努力案などは？

8 町村の児童生徒の交流、ふるさと創造学の学びの推進が図られている。F-REI と小中学校の連携を図られるようにする。

中高交流会やサミットなど、昨年度の課題が活かされていないことが残念。結果ここに改善案等を出しても、下の意見は反映されないと感じている。

これまでの活動の成果により、生徒達に必要な力は育ってきていますが、教職員の負担過重にならない活動であればと思っています。

震災から13年半経過したが、復興未だ道半ば。加えて、震災後生まれの子どもたちに、復興の取組や震災の教訓を継承することも大切。双葉町の帰還を始め、地域復興を進めるためには、これまでの取組の継続し、震災の記憶を風化させないことは大切だと考えます。

確実に成果が出てきていると感じられる。次年度以降も継続していきたい。

「絆づくり交流会」について、現在の児童は震災後に生まれた子どもたちであり、当初と状況が違うため、あり方を変えていく必要があると思いました。教育課程に無い活動であり、それを夏休み中に子どもたちを集めて教師が主体となって行うのは難しいと思いました。子どもたちも、交流しようというよりは、ただ遊びに来ているだけのように感じました。例えば、町村主体で外部団体(イベント系)にも依頼しながら、「交流」をより意識できる楽しい校外活動という形で計画してはいかがでしょうか。

学校や地域のために何ができるか、という視点で進められれば良いと思う。

事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。

震災後、生徒の数も減り、環境が大きく異なった双葉郡の教育を支えていただき感謝しております。

『地域の活性』は、学校があつてのことだと思います。震災後、地域コミュニティが失われた地域において、そのコミュニティ形成に対して“ビジョン”の活動は大切であると思っています。

子どもは着実に成長している。子どもの願いに応える教職員のスキルアップを図りたい。

双葉町の町立学校の本町帰還まで、現在の活動を継続することと、帰還後に新たな枠組みにおいて交流活動を継続できる体制づくりが必要。

<p>このようなアンケートの結果がどのように反映されているのでしょうか？毎年の振り返りの後の改善がよく見えません。実施母体のビジョンだけでなく、学校現場や地域などの意見をどのように取り入れていくのか、そしてどのように改善していくのか、もう一度考えるべき時期と思います。</p>
<p>人事異動により教員の配置が換わっても13年前に策定した「双葉郡教育復興ビジョン」が双葉郡8町村の枠を超えて進化しながら脈々と受け継がれていることに感謝申し上げます。お陰様で「双葉郡教育復興ビジョン」の取組を経験した子ども達はこれから長い人生を送る中で、大きな支えになっているものと思います。国や県や関係機関の支援を受け、ビジョン事務局をはじめ多くの方々の並々ならない努力の成果であると考えます。</p> <p>そこで、この取り組みを今後も継続していくために双葉郡内のすべての教員が十分に理解し一丸となって推進していく体制作りが望まれます。</p>
<p>双葉郡教育復興ビジョンの取組により、双葉郡8町村はそれぞれの地域の実態に応じた教育を展開できていると考える。一方で、異動により双葉郡地域の過去や現状を知らない教員が増えてくる中では、ビジョンの理念・方針等の共有と継承を図っていくことが重要であると考えます。これまでの取組の成果と、これからの方向性について、双葉郡のみならず県全体として共通理解を図っていければと考える。</p>
<p>日々、自分が担当する部分で精一杯ですが、もっとみなさんの活動を知りたいと思いましたし、同じ悩みを抱えている方がいれば、一緒に交流もしてみたいと思いました。</p>
<p>今後、何ができるか考えていきたいと思います。</p>
<p>ビジョン策定、ふるさと創造学始動から10年以上を経て多くの成果が生まれていると感じます。より一層取り組みを充実させていく方策の検討においては、教職員や保護者や地域も参加したオープンな熟議「双葉郡こども未来会議」を複数回開催してはどうかと考えます。今一度各当事者の主体性と英知を引き出して取り組んでいきたいです。</p>
<p>双葉郡は、比較的頻繁に人の転出・転入が起こる地域であるので、これまでの成果や取り組みについて、しっかりと伝え続けていく必要がある。</p>
<p>F-REI との関係づくりが今後の課題</p>
<p>教育復興ビジョンの取り組みが、11年目となり各自治体、教育環境の復興フェーズがそれぞれ変わってきている。ふるさと創造学が探究学習として、これからの社会にどのように生きていくか、生きる力の醸成として成果を表している。個の自己実現のために、広域による連携をさらに発展させるため、特別なカリキュラムによる探究的な交流学习の実現に向けた議論が必要と考える。</p>

## 2.4 双葉郡教育復興ビジョンの推進について

### (エ) 双葉郡教育長、校長、中高生交流会実行委員長

双葉郡 8 町村の垣根を超えて長年取り組んできた教育復興ビジョンの各種取組の成果は非常に大きい。今後はより一層この取組を進化させる必要があると考えている。

人事異動等により各学校で「ふるさと創造学」を中心になって担当してきた教員が転出したり、他地区から双葉郡に初めて転入してきた教員が数多く存在する中で、双葉郡教育復興ビジョンの理念やふるさと創造学のねらいが継承されるだけでなく、年々進化し続けていることは「ふるさと創造学教員研修会」や「教職員による子供未来会議」等の研修の成果であると言える。

しかし、震災から 14 年が経過し「双葉郡教育復興ビジョン」が策定された経緯や趣旨や目的の理解が薄らいでいることも事実である。そこで、上記の研修会以外にも校長会や各学校で年度当初に全職員で共通理解を図りながら事業の更なる充実等に努め、今後も教育復興ビジョンの取組を継承し、持続可能なものとしていく必要がある。

また、今後 F-REI（福島国際研究教育機構）と連携し自立した社会人となる教育、キャリア教育の推進を図っていく必要がある。

### (オ) 地域コーディネーター

「双葉郡地域学校協働本部」がどのような組織なのか。何が目的で何が出来るのか。各町村の地域学校協働本部との違いは何か。と言ったことが、十分理解されていない。定期的な会合等により、コーディネーター同士のつながりを深めたり、自町村だけでは解決できない課題も、郡内の力を結集することで解決に向かうことが可能になるよう「双葉郡地域学校協働本部」を活性化させる必要がある。

### (カ) 幼稚園、保育所、認定こども園の園長

「ふるさと創造学」で双葉郡の子どもに身に付けさせる資質・能力のうち、幼児期から身に付けさせたい項目は「主体性」100%、「自信・自己信頼」80%、「学び続け生かす力」20%であった。

震災後実施しているふるさと創造学について、サミット等へ参加することで、自分の意見や考えをまとめて発表したりする力が身に付き、他校の生徒と交流できる機会でもあり、すばらしい取り組みだと考えている。幼児期から、様々なことに興味関心を持ち、よく見て考え最後まであきらめずに行動できる力の育成が必要である。やり遂げた達成感は、自信につながると考えられる。

震災後、町村の子どもの数が激減し、その町村の未来を担う人材育成が危ぶまれてきた。しかし、避難先での「ふるさと創造学」での学びを中心に、その想いが現在まで引き継がれ、元に戻った町村では、子供達の学びが伝統文化やこれまでの産業に目を向けた取り組みであったり、新しい取り組みにも積極的に関わろうとするなど、未来を担う人材育成が進められている。グローバルな人材育成としても、コミュニケー

ション力や表現力、協調性の育成を行なっており、改めて地域を知って、地域のためにできる事を、地域の方々と協働でやろうとする力が育ってきていると感じている。

ふるさと創造学をはじめとした資質能力の育成や、生徒会連合や各種交流会をはじめとした町村の垣根を越えた連携は、確かな教育復興への歩みであると感じる。震災・原発事故を経て、幼児期からの資質能力の基盤の育成の重要性はより一層高まっている。また、震災・原発事故で課題を抱えている家庭への子育て支援などを通じた支援も園の重要な使命となると考えている。

(エ)双葉郡教育長、校長、中高生交流会実行委員長 ※主な意見

<b>1. 私たちの町村（または双葉地区）の児童生徒の「学力」等の現状（問題点だけでなく成果も）と今後の課題については、どのように考えますか。</b>
少人数を生かし、一人一人の実態に合わせた指導を行っている。しかし、学習意欲に差があり、学力の定着状況は全体としては高いとは言えない。全国学テの生徒質問紙の結果を見ると、将来に対する夢や目標をもっている生徒の割合が低く、そのことが学習意欲につながっていると思う。生徒一人一人が、自分の人生をどうデザインしていくかを考え、そのために学習の自己マネジメント力を育てていくことが、学力向上に必要なことと考える。
早い段階で ICT 教育を取り入れることができたため、児童生徒の ICT 活用能力は比較的高いと感じる。個別最適な学びにおいては、十分保証されているとはいえない。
○ 一人一人の特性等も多様であり、学習内容の定着状況や、事象を踏まえながら考えを適切に表現して伝えることなど表現力の面でも個人差が大きい。一人一人に応じたきめ細かな指導とともに、習熟の程度に応じた発展的な指導や表現力向上につなげる学習活動等、個々の力を一層高める指導を工夫したい。
○ 全国学力学習状況調査の児童生徒への質問紙による調査における「先生は、児童生徒が理解できるまででいねいに教えてくれる」ことについて、多くの児童生徒がプラスの回答をしている。
○ 児童生徒と教師との良好な関係に基づきながら、自主的・主体的な学習態度・学習習慣の育成について、これまでも取り組んできたが、今後も重点を置きながら取り組む必要がある。
○ 家庭学習の充実を図りたい。学習の結果や取組を振り返り、自分の課題を客観的に捉えること、自分の課題に応じ目標や計画を立てるなど、自己マネジメント力が高められるよう工夫したい。
小規模校のため一人一人が主役となり活躍する機会が多く学力面だけでなく人間としても大きく成長している。また、特別な支援を要する児童生徒が多数在籍しているが加配教員や支援員の配置により、子どもに寄り添ったきめ細かな教育が行き届き、伸びしろも大きい。
課題としては、つらいことや困難なことに耐え、乗り越える力が不足している。子どものレジリエンスを向上させる必要がある。
令和 6 年度全国学力学習状況調査の結果を見ると本村の中 3 では国語、数学ともに全国平均を上回った。
小 6 は国語は全国平均を上回ったが、算数は県平均を上回ったものの、全国平均をやや下回っ

<p>た。(公表はしていない)</p> <p>この成果は少人数に対する手厚い指導や義務教育学校ならではのカリキュラムマネジメント（前期後期相互の授業乗り入れなどによる授業時数の削減や TT での指導、学習支援員の効果的な活用等）、復興推進加配等で教師がしっかりと配置されていること等によるものと思われる。ただし、他の学年には学力の二極化が見られたり、極小人数学年では下位生徒の得点が平均に大きく反映してしまい平均点そのものが下がることもあるため、平均点の比較が学力の状況を測るのにそぐわないといった面も見られる。今後も個に応じた指導を充実させるための授業改善を推進することが大切であると考え。</p>
<p><b>2. 双葉郡の教育復興ビジョンで取り組んできた学習、各種の事業を通して、印象に残っている「子どもの学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか。</b></p>
<p>中高生交流会、ふるさと創造学では他校の生徒の話を聞いたり、発表して意見を交流する場面があった。避難している学校では、地域との連携が取りにくい状況であり、生徒が教師以外の他から、学ぶ機会が少ない。また、大人数を前に発表する経験も少ない中、昨年度のふるさと創造学では、発表と意見を交流する機会があり、小グループに分かれて、自分の考えを話すことができ、他の生徒の考えを真剣に聞いていた。そういう経験を今後もさせていきたい。</p>
<p>小学・中学時代に各種の事業を経験して入学してきた高校生の意識は高いという印象がある。これまでの交流や出会いが、高校での探究活動や生徒自身の進路活動にも大きく影響していると思う。</p> <p>生徒の成長の要因を学習プログラムごとに抜き出すのは難しいが、教育復興ビジョンでの経験と各学校での学習活動が相乗効果をもたらしている。</p>
<p>○ 中学校卒業直前の生徒との会話から、「浪江町のシンボルとなるようなものをデザインしたい。ふるさと創造学の取り組みをとおして、そう思うようになった」という言葉があった。その生徒は工業高等専門学校・建築デザイン科へ進学する生徒だった。ビジョンの取組は、一人一人の生き方・あり方の育成につながるものであると思う。</p> <p>○ 町の子ども議会での質問や提案にあたって、現状について調べ、他教科などで学習したことも踏まえながら分析し、考察する姿が見られた。</p> <p>○ 発表等の場面において、発表者の発言に対して自分の考えをつぶやいたり、挙手して話したりするなど、能動的に対話に加わる姿が見られるようになった。</p>
<p>ふるさと創造学により子供たちが本村の復興に向けた取り組みを学ぶことで、本村の魅力を知り、これからの復興に向けてできることを考える活動を通して、村に愛着を感じ、村のために役に立ちたいという意識を高める姿が見られた。本村の良さや村民の良さ（村には素敵な大人がいる等）を感じることは、将来の川内村を支える人材の確保につながる大切なことだと思う。</p>
<p>ふるさと創造学において、双葉郡出身の子どもも、そうでない子どもも、双葉郡の復興に向けて我が事として考えて探究し、その活動で涵養された生き方・在り方を軸として持ち続けて大人になっても双葉郡で活躍している姿（役場や復興事業者で働いている卒業生、郡外出身ながら都内の大学卒業後に郡内に就職した卒業生など）</p>
<p><b>3. 同じく、それらの中で印象に残っている「教職員の学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか。</b></p>

<p>ある学校の生徒が、閉会式の最後の生徒の感想発表の場面で手を挙げ、たどたどしくも自分の感想を発表している姿を、見ている先生たちの姿が、その生徒の発表を心配ながらも見守り、生徒が発表し終えた時に皆さんで拍手をし、生徒の成長ややり遂げた達成感を共有し、先生方も感動している姿が見ていて感動した！表現が下手ですみません。</p>
<p>双葉郡の各学校先生方の諸々の取組や言動・パフォーマンスが全般的に高いと感じる。 特に、中高生交流会で実行委員をしていただいた先生方の各教室での運営は大変素晴らしかった。外部講師の力を引き出しながら、様々な生徒への対応・支援されている様子はお見事であった。 これまでの教育復興ビジョンを通じて培ったものが先生方や学校に蓄積されているからだと思う。</p>
<p>○ 本町出身の教職員（震災を体験した）は、より一層、地域の伝統文化や震災の教訓等について、児童生徒に伝えようとする意識が高まり、積極的な姿勢が見られる。 ○ 他地区からの教職員も、ふるさと創造学等の指導を通し、本町についての関心が高まり、児童生徒の学びが深まるよう、一緒になって学び、探究する姿が見られる。 ○ 教職員は他の12市町村の取組を参考にすることで、ふるさと創造学等、指導内容の改善に生かすことができおり、教育課程編成の際にも工夫・改善の視点を大切にしている。</p>
<p>川内村を知る学習を指導する中で、教職員も村の良さを知り、村に愛着を持つ姿が見られた。このことは児童生徒を指導する熱量（意欲）の向上につながる大切なことだと考える。また、探究的な学習を指導する指導力の向上やプレゼンテーションの指導力の向上が見られ、ICTの活用力も高まっている。</p>
<p>教職員も避難しながらの勤務、以前の同僚に会う場面では抱き合って喜んでいて。人と人との交流や絆が、次の教育活動への牽引になっている。目の前の子どもたちと一緒に学んでいこうとする姿勢がビジョンが取り組んできた学習、事業の取り組みにおいて反映されている。</p>
<p><b>4. 同じく、それらに関わって保護者や地域の方々からは、どのような話を聞いていますか。</b></p>
<p>自分たちのふるさとが歩んできた道を子ども達が学び、また、これからの双葉郡に対して、子ども達の視点で何ができるかを考える機会があることは、とても有意義である。</p>
<p>・ふるさと創造学の実施について、学校作成の成果物（地域のマップ、リーフレット、小冊子など）、「ふたばの教育」などから、小・中学校におけるこの事業についての理解が広まっている。児童生徒の地域（ふるさと）理解について、高評価を得ている。</p>
<p>子ども達が田植えから稲刈りまで体験し、頂いたもち米でお餅をついて1年間お世話になった村民の方々を招待し感謝の会を開いたとき、「子ども達が元気に挨拶をしてくれたり、生き生きと笑顔で活動する姿を見るととても嬉しい。」という声が聞かれた。</p>
<p>学校評価アンケートや来校した保護者からは肯定的な意見が多数寄せられている。特に文化祭で後期課程の生徒がふるさと創造学に基づく発表を行うが、多くの保護者や地域の方からお褒めの言葉をいただいている。地域での学びに協力していただいている事業所の方などからは理解と協力をいただき、学びの充実が図られている。</p>
<p>別の地域（学校）では、体験出来ない活動が、双葉町の学校では出来る。少人数ではあるが、一人一人に寄り添った教育活動が出来ている。</p>



<p><b>5. 「双葉郡の教育」をどのようにご覧になっていましたか。または、この4ヶ月で感じたことなどは。(新たに双葉郡においでになられた校長先生方)</b></p>
<p>各校では実現できない様々な各種体験活動・少人数ではなしえない活動を、双葉郡の各小学生と中学生が集まり、交流することはとても大切です。今後これがより発展してして、教科での交流や行事での交流に発展すると良いと感じている。</p>
<p>各町村とも、避難等により生徒数が少なく、また、これから町づくりを進めていく中で、中高生交流会やふるさと創造学での交流が行われていることがとても良い。生き方を学ぶ機会があったり、他校の生徒と意見を交流したり、取組を紹介し合う場があることは、双葉郡の子どもどうしの絆を深めるとともに、それぞれの町村の未来を担う意識を高めていると思う。</p>
<p>復興・再生といった点で先駆的な取組が多く、他の地域の参考になっていると思われる。担当者の情熱がないと続けられないのではないかな。</p>
<p>双葉郡8町村の小中学校と県立学校の連携が深く、他にはない協力的な体制だと思います。</p>
<p>双葉郡8町村が力を合わせて取り組んでいることが印象的である。 生徒・教員が交流を通じて学ぶことは非常に多いので、教育復興ビジョンの目的を見つめ問いながら、教員 ・児童生徒それぞれの立場で、その意義を感じ取れるよう工夫し続けていかなければならないと感じる。</p>
<p><b>6. 「双葉郡教育復興ビジョン」を推進していく上で、御苦勞もあるかと思いますが、それはどのようなことですか。</b></p>
<p>これまでの取り組みで今後継続していく事や状況に応じた新たな取り組みなどとおし、震災等による体験を風化させない事、また今後子どもたちに地元、地域を盛り上げていくためにどのようにかかわってもらえるか？</p>
<p>毎年、先生方の入れ替えがあり、特に双葉郡に初めて入る先生方は、この教育の趣旨・主旨と言いますか、理念と言いますか、何故双葉郡で力を入れて取り組んでいるかを理解していない方がほとんどですので、今一度双葉郡の教職関係者が一堂に会して確認し合う機会がとても必要ではないかと思えます。</p>
<p>児童生徒および教員の「多忙さ対教育効果」を高めていくことを意識している。多忙感によって、参加すること・実施することが目的とならないよう、児童生徒の充実感や達成感を実感させ、教員のやりがいを高めたい。 例えば、通常の学校生活での主体的な学びで鍛えられたものが、双葉郡のイベント等で児童生徒がそれらの力を発揮できて自信になったというような、個々が成長を実感できるプログラムにしたい。</p>
<p>○ ビジョンの理念や各事業等の必要性等についての意識の共有については、教職員の異動も踏まえ、また、内発的な意識の高揚の観点からも、成果を共有しながら、計画的に継続して取り組むことが、今後とも重要であろう。</p> <p>○ 各実行委員会担当教職員の負担感を少なくしていきたい。一方、他校の教職員と協働する楽しさなどを味わっていただけるような展開を検討したい。</p> <p>○ 年間を通して断続的に転入生を受け入れているため、教職員がそれらの児童生徒に新しい「ふるさと」を学ばせるための工夫を必要としている。「ふるさと」学習の蓄積の差を埋める工</p>

夫が必要であり、在籍する他の児童生徒のポートフォリオを活用するなどしている。
教職員の人事異動はどうしても避けて通ることはできない。双葉教育復興ビジョンが双葉郡に限定されるものではなく、国や県が推進している教育改革のそもそもの通じていることをしっかりと理解してもらうことで、今後も持続可能なものへとしていく必要がある。
<b>7. 今後の学校の教育活動でF-REI（福島国際研究教育機構）とどのような連携を望んでいますか。</b>
機構の存在から、キャリア教育を進めたり、かつロボット・農水産業・エネルギー・放射線科学・産業等への人材育成となるための教育支援で連携を進めていきたい。
・地域に根ざした企業・産業が少なく職業人としての将来設計が描けないところがあるので、F-REI と連携し自立した社会人となる教育、キャリア教育の推進を図れるようにしていきたい。
世界中の研究者が集まり様々な研究がされると思うので、子どもたちにも身近に体験できる研究施設になってほしい。
F-REI には、地元双葉郡から応援・愛されるような機関となってほしい。そのためには、ハイレベルな施設・研究が双葉郡に存在するということに満足せず、また、各学校、各校種単独での連携に加えて、より地域と交わり、縦横につながるシステムを創出したい。
例えば、小・中・高、そして大学、F-REI へと、長期継続的な「(縦に) つながる学び」を作るといった、各学年・校種の発達段階を考慮した系統的な「学びのプログラム」を、双葉郡の学校と連携しながら作れないものだろうか。F-REI には地元の初等中等教育を重視していただき、連携部門・専門職員を設置・配置してもらうなど、地元出身の研究者育成を視野に入れてほしい。
例えば、F-REI 周辺に集積する大学群での単位互換やふたば未来学園高校とのアドバンスト・プレースメント (AP) を進めるといった「知の集積」のメリットを生かした教育システムの構築を図り、双葉郡からの大学進学率を高める連携が望まれる。
例えば、海外小中高生との交流の場を作り、F-REI の研究テーマに準じたジュニア研究発表の場やジュニア国際会議を開催する。また、文理融合的な学びの場を創出し、科学・技術をどのように社会に生かすか、倫理的・道徳的な視点で世界や未来を展望する機会を創出する。(広島の平和宣言のような) 双葉郡の復興を進める中で、社会や人類の平和について提言していくなど。。
...
また、例えば、現行の教育復興ビジョンが、発展的に F-REI と連携した内容・プログラムとなったり、「学びのプログラム」など学校連携が図られたりすることで双葉郡の教育がより一層充実することが期待される。
ひいては住民の帰還・移住が促進され、復興につながることは言を俟たない。
○出前授業 ○F-REI の施設内で先進的な研究を体験 ○ふるさと創造学などで課題探究活動へのアドバイス ○外国籍の研究者が学校を訪問し国際理解教育を実践
<b>8. その他</b>

<p>年度当初校長としてビジョンの事業について説明はしますが、発足当時の熱い思いまでは伝わらないことがあるかもしれません。双葉郡の学校に着任した教職員へ一斉の講話があるとその意義や必要性を理解していただけるのではないかと思います。</p>
<p>地域を支え復興を担う人材育成を図るため、引き続き、小中高の連携により各種取組を進められるよう、ビジョン推進協議会事務局の御尽力をお願いいたします。</p>
<p>・中高生交流会は、2015年以降9年経過することから、ふたばの教育復興応援団の支援による講師に頼らずに、教員、中高生の自らの手で交流する時期にきている。そうすることにより、教員、中・高生の発想力、企画力が身につく。講師による交流は受け身の行事となり、自身の力にならないと考えている。また、参加人数、講座数についても考慮する必要がある。</p>

(オ) 地域コーディネーター ※主な意見

<p><b>1. あなたの町村では「双葉郡地域学校協働本部」との連携・協働をさらに促進していくためにはどのようなことが考えられますか。</b></p>
<p>(1) 定期的な会合等を行い、郡内のコーディネーター同士のつながりを深める。</p> <p>「双葉郡地域学校協働本部」がどのような組織なのか。何が目的で何が出来るのか。各町村の地域学校協働本部との違いは何か。と言ったことが、私自身浅学のため不明瞭であった。定期的な会合等により、異動等で初めて「双葉郡地域学校協働本部」と関わる者にとって、そのようなことを明確にしていくことが「双葉郡地域学校協働本部」を活性化させる第一歩となる。</p> <p>また、自町村だけでは解決できない課題も、郡内の力を結集することで解決に向かうことが可能な場合もある。そのためにもコーディネーター同士のつながりを深める必要がある。</p>
<p>(2) 教職員への周知</p> <p>「双葉郡地域学校協働本部」について存在自体を知らない教職員は少なくない。上記(1)の同様、「双葉郡地域学校協働本部」が何であるかについて教職員への周知を強化したい。特に、10万円の予算があることが分かるだけでも活用の幅が広がるのではないかと思う。</p>
<p>(3) 予算の柔軟性</p> <p>予算の使い方について、様々な条件があるかとは思いますが、可能な限り柔軟に活用できるようにすることで、より効果的な活動ができるようになる。</p>
<p>そもそも、今年度、どのような活動を通じて地教委と連携協働を図ってきたのか、分からない。さらに促進というならば、どのように双葉郡内の教育委員会と連携を意図しているのか、協議や周知が必要である。住み分けや役割分担を明確にすべき。</p>
<p>地域コーディネーターが協働本部メンバーも兼ねており、両方の事情も踏まえつつ推進している。</p>
<p>学校から積極的に情報提供をし、地域や保護者の方々の協力を得るようにする。教育委員会からご指導をいただきながら進めていく。</p>
<p>・町村を越える情報共有及び事例共有</p>

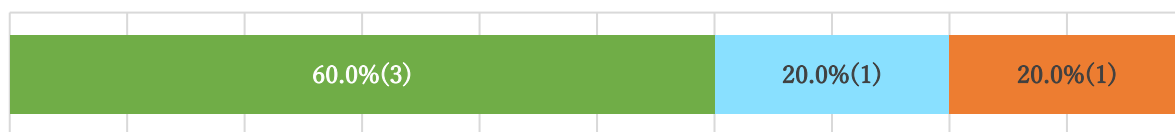
<ul style="list-style-type: none"> <li>・双葉郡地域学校協働本部の活動内容等のPR</li> </ul>
<p><b>2. あなたの町村で地域コーディネーターとして具体的にどのような活動をしてきましたか。</b></p>
<p>学校、こども園、社会教育施設、地域施設など、あらゆる分野、場面においてコーディネートしている。</p>
<p>先生方と地域ボランティアを繋ぐハブとなり、地域学校協働推進委員と協同してリクエストを具体化する事。</p>
<p>校長の発案により、昨年度から学校支援ボランティアを募った。昨年度は3名の方に子どもたちへの支援や指導をしていただいた。(合唱、合奏指導、書写指導)この他にも、読書ボランティアや読み聞かせボランティアの方々にご協力をいただいている。</p>
<p>(1) 学校支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援のニーズ把握</li> <li>・授業支援者(外部講師、学習支援等)の派遣の調整</li> <li>・小中学校の校外学習や総合的な学習の時間の授業支援の調整</li> <li>・学校ボランティア活動(清掃等)の支援の調整</li> </ul> <p>(2) 学校外支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブとの連携</li> <li>・地域交流タイム</li> <li>・夏休みの児童対象体験講座の企画運営</li> </ul> <p>(3) 地域住民交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校主催の行事等への協力依頼</li> <li>・町主催行事への積極的参加及び協力</li> <li>・地域交流カフェの企画運営</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な推進員情報交換会の開催</li> <li>・地域連携だよりの発行</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での出前授業の相談窓口</li> <li>・地域住民と連携した活動の運営(花植、踊りの練習)</li> <li>・職場体験における村内企業と学校の窓口</li> </ul>
<p><b>3. これまでの取組を通して、印象に残っている「子どもの学びの姿、言動、成長の姿など、地域や外部人材等の感想等」があれば、それはどのようなことでしたか。</b></p>
<p>小学校下学年の田植え体験において、初めての体験のため泥に足を入れることも怖がり、田植えが出来ない児童がいた。先生が色々と声掛け等をしたが頑なに動かない。しかし、地域住民の方と話すうちに気持ちが落ち着くとともに意欲がわき、自分から田んぼへ入っていった。その後は何事もなかったかのように田植えをし、最後は泥だらけになって楽しんでた。</p> <p>先生も一人で多くの児童を対応する必要があるため、もし現場に先生だけであった場合、その児童は最後まで田植えをできずに終わっていたかもしれない。そこに先生という立場ではない地域住民の存在がいたことによって、児童が心を整えることが出来たのではないかと思う。校外学習だけでなく、校内においても可能性を感じる場面であった。</p>

地域づくりに繋がっているとの声を多くもらっている。
子ども達が栽培した米で餅つきパーティー開催し、様々な地域ボランティアを招待して年間活動報告を行ってくれたこと。
子どもたちは教員以外の支援や指導に新鮮さを感じているようである。
村内企業への職場体験後、企業の代表者から「児童の仕事に対する向き合い方・目の輝きが素晴らしく、より一層葛尾村のために貢献したい」旨の感謝の言葉をいただいた。
<b>4. 地域コーディネーターとして活動する上で御苦労もあるかと思えます。</b> これまで苦労したり課題と感じていることは何ですか。また、その解決策としてどのようなことが考えられますか。
自分の思いを優先し、意に沿わない場合は強い口調で非難する方への対応が難しい。
そもそも地域人材が少ない中で、どのように持続可能な地域の協働活動を展開していくのか課題である。移住者などとの連携を図っているが難しい。根本的な解決策はない。
先生方がもっと地域に出て欲しい
学校支援ボランティアを希望されている方、ご協力をいただける方は数名いるものの、学校行事や授業の進度具合等により、積極的に活用できていない。
葛尾村は教育委員会職員が地域コーディネーターを兼務しているため、コーディネーターとして時間を確保することが難しい。役場OBや教員OBなどが担うことで、より充実した地域との連携や協働活動が期待できる。

(カ)幼稚園、保育所、認定こども園の園長 ※主な意見

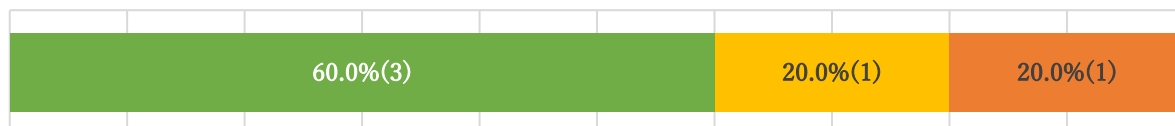
<p>1. 双葉郡では震災と原発事故後、双葉郡8町村の教育長が復興庁、文部科学省、福島大学の支援を受けて平成25年7月に双葉郡教育復興ビジョンを策定しこれまで推進してきました。以下にその具体的な取組を挙げましたので、各項目についてA～Dのあてはまる項目を選んでください。</p>															
<p>① 「ふるさと創造学」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 大変よく知っている</td> <td>60.0%</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>B: よく知っている</td> <td>20.0%</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C: 名称だけは聞いたことがある</td> <td>20.0%</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>D: まったくわからない</td> <td>0.0%</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ A: 大変よく知っている ■ B: よく知っている ■ C: 名称だけは聞いたことがある ■ D: まったくわからない (グラフ括弧内単位: 人)</p>	項目	割合	人数	A: 大変よく知っている	60.0%	3	B: よく知っている	20.0%	1	C: 名称だけは聞いたことがある	20.0%	1	D: まったくわからない	0.0%	0
項目	割合	人数													
A: 大変よく知っている	60.0%	3													
B: よく知っている	20.0%	1													
C: 名称だけは聞いたことがある	20.0%	1													
D: まったくわからない	0.0%	0													

①-1 「ふるさと創造学サミット」



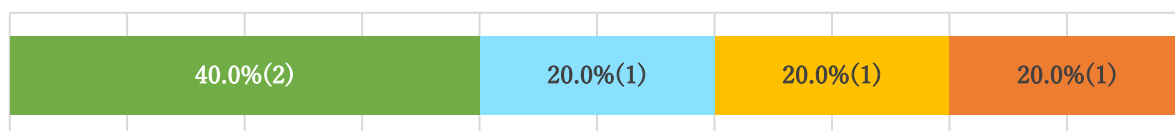
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

② 「小学校絆づくり交流会」



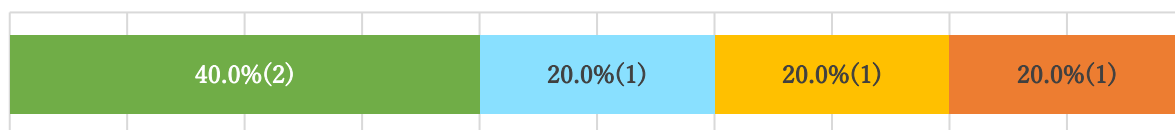
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

③ 「双葉郡中高生交流会」



■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

④ 「ふたば生徒会連合」



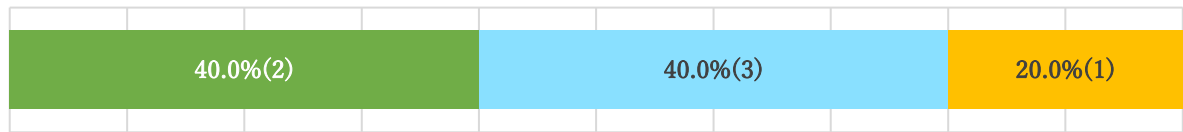
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑤ 「ふたば未来学園高等学校開校」



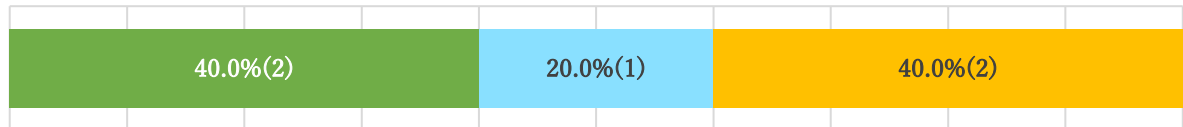
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑥ 「ふたば未来学園中学校開校」



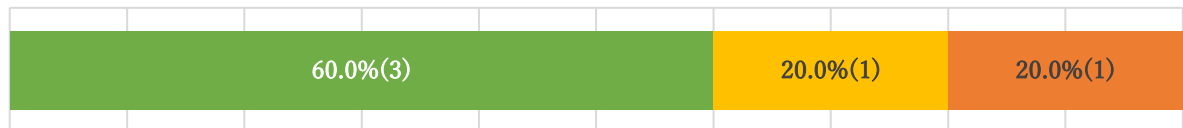
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑦ 「双葉郡子供未来会議」



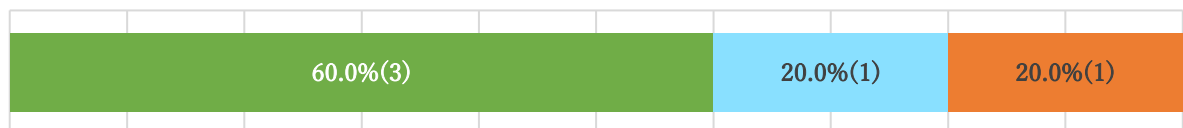
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑧ 「ふるさと創造学教員研修会」



■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑨ 広報誌「ふたばの教育」発行



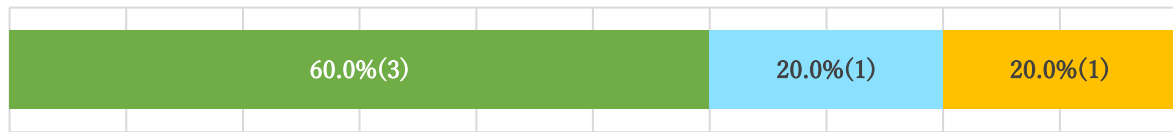
■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

⑩ 「双葉郡地域学校協働本部」



■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

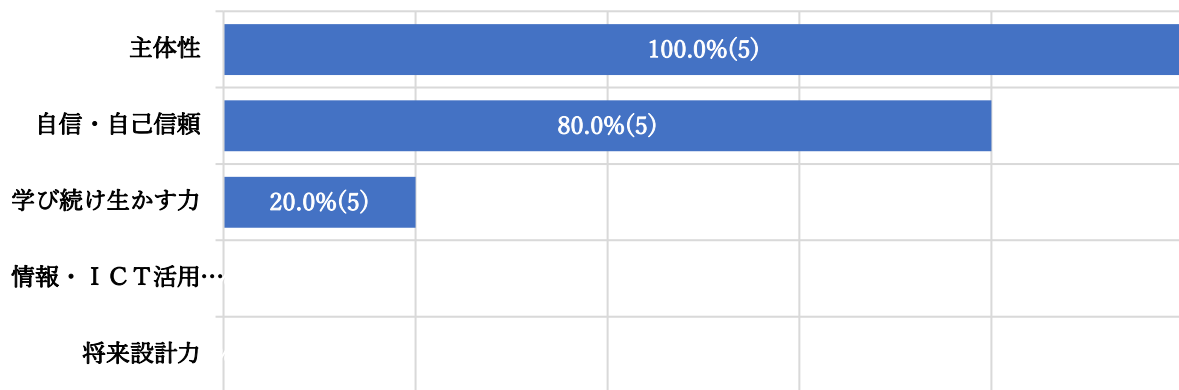
⑪ 「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」



■ A：大変よく知っている ■ B：よく知っている ■ C：名称だけは聞いたことがある ■ D：まったくわからない  
(グラフ括弧内単位：人)

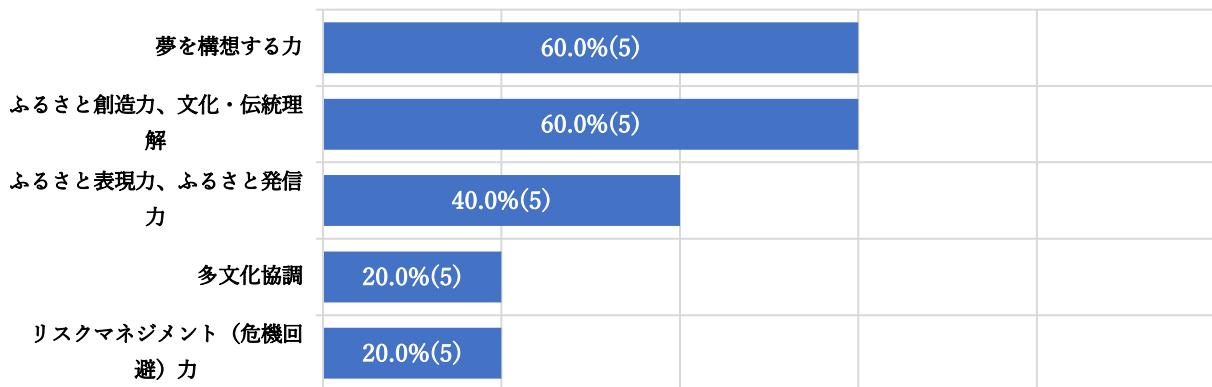
2. 大きな柱の一つである「ふるさと創造学」では次のような資質・能力を双葉郡の子どもたちに身に付けさせようとしています。これらの資質能力のうち、幼児期から身に付けさせたい項目を選んでください。

基盤となる資質能力



(グラフ括弧内単位：人)

双葉郡で特に育むべき資質・能力



(グラフ括弧内単位：人)

3. 震災と原発事故後の「双葉郡の教育」をどのようにご覧になっていましたか。

震災前と比較すると、まだ、園児・生徒数は少ないが、少ないからこそ、文科省が定めている学習指導要領のポイントとなっている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実が図られていると感じている。

元気な子供たちや学校の様子が見られてよい

震災後実施しているふるさと創造学について、サミット等へ参加することで、自分の意見や考えをまとめて発表したりする力が身に付き、他校の生徒と交流できる機会でもあり、すばらしい取



り組みだと思えます。幼児期から、様々なことに興味関心を持ち、よく見て考え最後まであきらめずに行動できる力が大切だと感じております。達成感、自分に自信がもてるようになると思っています。

震災後、町村の子どもの数が激減し、その町村の未来を担う人材育成が危ぶまれてきました。しかし、避難先での「ふるさと創造学」での学びを中心に、その想いが現在まで引き継がれ、元に戻った町村では、子供達の学びが伝統文化やこれまでの産業に目を向けた取り組みであったり、新しい取り組みにも積極的に関わろうとするなど、未来を担う人材育成が進められています。グローバルな人材育成としても、コミュニケーション力や表現力、協調性の育成を行っており、改めて地域を知って、地域のためにできる事を、地域の方々と協働でやろうとする力が育ってきていると感じています。

ふるさと創造学をはじめとした資質能力の育成や、生徒会連合や各種交流会をはじめとした町村の垣根を越えた連携は、確かな教育復興への歩みであると感じる。震災・原発事故を経て、幼児期からの資質能力の基盤の育成の重要性はより一層高まっている。また、震災・原発事故で課題を抱えている家庭への子育て支援などを通じた支援も園の重要な使命となると考えている。

以上